

ユニバーサルデザイン 10年の取組



はじめに

海の中道海浜公園は、海の中道固有の白砂青松の自然環境の保全、北部九州における広域的レクリエーションの拠点の創出等を目的として設置された国営公園です。

1976年（昭和51年）に事業着手して以来40年以上にわたって事業を実施しており、開園当初よりすべての方が利用しやすく・楽しめることを念頭に置いた公園づくりに取り組んできました。

さらに、2006年（平成18年）の「高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（通称：バリアフリー新法）」の施行を契機に、本公園では、すべての方が利用しやすく・楽しめる公園づくりを目指す「ユニバーサルデザイン」の考え方を全国に先駆けて導入し、「日本一のユニバーサルデザインを目指す」というビジョンを掲げ、これを実現させることとしました。

「ユニバーサルデザイン」は、明確な基準が定められるものではありません。海の中道海浜公園の固有性を基調とした独自の「ユニバーサルデザイン」を工夫しなければなりません。そのために、幅広い視点を有する学識者・有識者から構成される検討委員会を立ち上げ、様々な課題に対してPDCAサイクル（P：Plan、D：Do、C：Check、A：Action）による試行錯誤を重ねながら整備・管理運営を進めてきたところです。近年では、外国人観光客の増加など、利用者の多様化に応じた取組を進めています。

本書は、ユニバーサルデザインの取組を開始してから10年の節目に際し、①海の中道海浜公園のユニバーサルデザインの取組10年間の記録を残すとともに、②公園の実務担当者向けに参考となる知見をとりまとめたものです。本書が、全国の公園管理におけるユニバーサルデザインの取組の一助となれば幸いです。

本冊子の構成

I. 本編

- 第1章 ユニバーサルデザインに取り組んだ背景
- 第2章 本公園におけるユニバーサルデザインの進め方
- 第3章 具体的取組の推進
- 第4章 取組のスパイラルアップ
- 第5章 今後に向けて
10年間の取組を振り返って

II. 年表

III. 事例集

- (1) ネットワークルートの設定・改善
- (2) 暑さ対策の実施、ベンチ配置改善
- (3) トイレの利便性向上
- (4) 授乳室の利便性向上
- (5) サインシステムの再構築による情報提供の改善
- (6) 通り名で道案内
- (7) 公園ガイドマップの充実

I . 本編

目次

第1章 ユニバーサルデザインに取り組んだ背景 ————— I-1

1. 海の中道海浜公園の概要
2. 取組の背景

第2章 本公園におけるユニバーサルデザインの進め方 ——— I-3

1. ユニバーサルデザイン検討委員会の設置
2. UD取組の進め方
3. ユニバーサルデザイン検討委員会の進め方
4. UDの基本理念、基本方針の整理
5. アクションプログラムの策定
6. UD取組の推進体制

第3章 具体的取組の推進 ————— I-14

1. ネットワークルートの設定・改善
2. 暑さ対策の実施、ベンチ配置改善
3. トイレの利便性向上
4. 授乳室の利便性向上
5. サインシステムの再構築による情報提供の改善（1）
6. アクションプログラムの成果と今後の課題

第4章 取組のスパイラルアップ ————— I-36

1. サインシステムの再構築による情報提供の改善（2）
2. 公園内の各機関のUDの取組の推進

第5章 今後に向けて ————— I-46

1. 海の中道海浜公園の現状
2. これからのユニバーサルデザイン

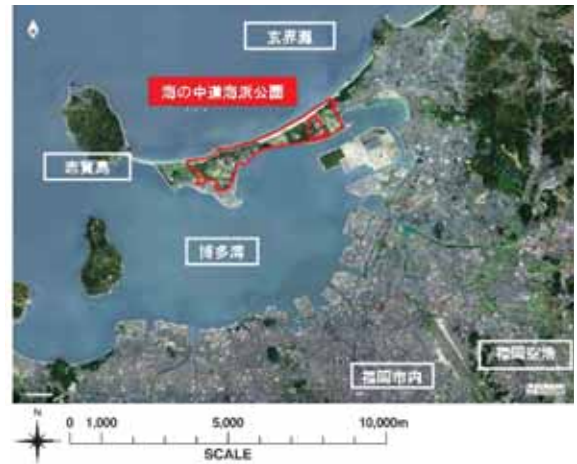
10年間の取組を振り返って

第1章 ユニバーサルデザインに取り組んだ背景

1. 海の中道海浜公園の概要

海の中道海浜公園（以下、「本公園」という。）は、玄界灘と博多湾を隔てて志賀島へ伸びる半島「海の中道」中央部(福岡県福岡市東区西戸崎)に、幅0.5～1km、長さ約6kmの区間にわたって位置する大きな国営公園（計画面積約539ha）です。

戦後、米軍基地として使用されていた跡地を活用した地形は平坦で、海浜地特有のクロマツ林を主体とした海岸線を有し、玄界灘側は、自然海岸による海岸植物が分布しています。北部九州における広域的レクリエーション利用、「白砂青松」の良好な自然環境の保全を目的とし、我が国5番目の国営公園として、1976年（昭和51年）に事業着手しました。特色ある地形と、歴史的、文化的背景に留意し、自然環境を活かした自然学習の場の提供や公園内の芝生、花、池などの魅力的なランドスケープを形成し、魅力あふれる空間を創出することで、レクリエーション需要の増大と多様化に対応しうる国営公園をめざし、誰もが安全・安心・快適に利用していただけるよう整備・管理を進めています。



2. 取組の背景

本公園は、公園設計の基本方針の中で『すべての人が公園に気軽に訪れ、それぞれの目的を果たせるよう施設の利用のしやすさ、安全性に十分な配慮を行うとともに、それに基づき、すべての人が参加し、楽しめる企画・運営等のソフト面についても充実させていくこと』という方針を掲げ、1976年（昭和51年）の事業着手以来、すべての方に利用しやすい施設の整備・管理運営に留意しながら事業を行ってきました。

そのような中、2006年（平成18年）に「高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（通称：バリアフリー新法）」が施行されました。これにより、それまで公共施設のバリアフリーは各主体がそれぞれの考え方で行い、統一的な基準はありませんでしたが、道路や都市公園などの施設毎の基準が定められ、その基準に適合させることが義務づけられました。

都市公園に関しては「移動等円滑化のために必要な特定公園施設の設置に関する基準を定める省令」（平成18年国土交通省令第115号）（都市公園移動等円滑化基準）が定められ、本公園においても、当該基準に適合させるべく取組を開始することとなりました。

しかし、本公園では、単に基準に適合させるだけでなく、『すべての人』が楽しめる快適で使いやすい施設の在り方、広大な空間と多様な施設がある本公園における分かりやすい利用案内について再考すべきではないか、という問題意識のもと、当時としてはあまりなじみの無かった「ユニバーサルデザイン」（以下、「UD」という。）の考え方に基づいて整備することにしました。



第2章 本公園におけるユニバーサルデザインの進め方

1. ユニバーサルデザイン検討委員会の設置

高齢者、障がい者等の円滑な移動を主目的とする「バリアフリー」は、様々な基準やマニュアルがあるのに対し、UDは、すべての人が対象であり、その基準も明確ではありませんでした。

そのため、配慮すべき視野が多岐に渡り、取組や進め方について慎重かつ丁寧に協議をする必要があることから、幅広い視点を有する学識者・有識者などで構成された「ユニバーサルデザイン検討委員会」（以下「UD検討委員会」という。）を2007年（平成19年）に設置し、海の中道海浜公園ならではのUDとは何か、どのように進めていくべきかという検討を開始しました。



第1回UD検討委員会の様子

■委員会名簿

(敬称略 50音順)

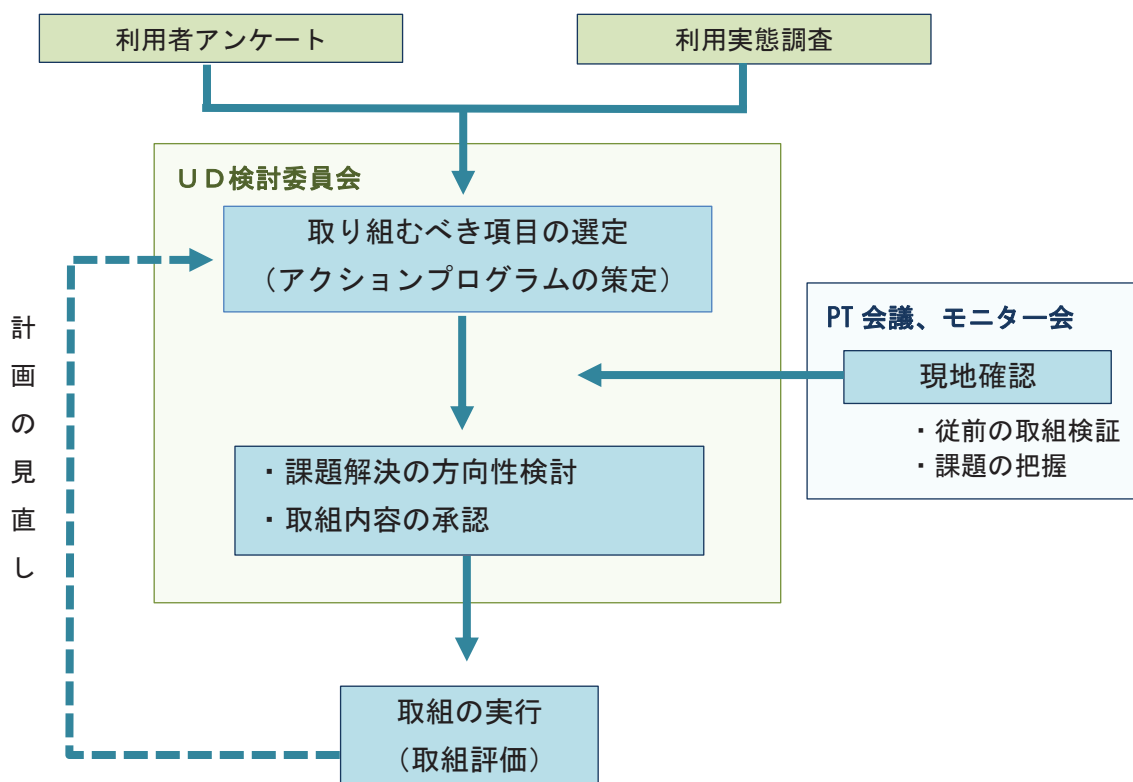
	名前／所属（平成19年設立当時）	
学 識 者 ・ 有 識 者	大山 勇雄	NPO 法人 福岡市障害者関係団体協議会 事務局長
	白土 悟	九州大学 留学生センター 准教授
	杉本 正美	九州芸術工科大学・神戸芸術工科大学 名誉教授
	濱砂 圭子	NPO 法人 男女子育て環境改善研究所 理事長
	細谷 恒夫	社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会 副会長
	美濃 伸之	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 准教授
	山形 紀子	西日本新聞社 総合メディア本部 Web企画室長
行 政	大澤 満	財団法人 公園緑地管理財団 海の中道海浜公園管理センター長
	石田 晶	UR 都市機構 九州支社 九州公園事務所長
	戸田 克稔	国営海の中道海浜公園事務所長
ワ ザ ー バ ー	櫻井 章生	福岡県 建築都市部 公園街路課 公園緑地係長
	田代 和則	福岡市 都市整備局 公園緑地部 公園計画課 調査係長

2. UDの取組の進め方

UDの取組にあたっては、まず利用者アンケートや利用実態調査等により実状を踏まえて、専門家の意見を聞きながら、取り組むべき項目を選定しました。そして、各項目の現状の取組の検証や課題の把握を行った上で、課題解決の方向性を決定しました。

課題解決の方向性に沿って、取組を実行し、評価を行い、そこで新たな課題が見つければ、再度検討して新たな取組を実践するというスパイラルアップ方式で、進めていくこととしました。

(UDの取組の進め方は以下のフロー図参照)



UDの取組の進め方フロー

3. UD の基本理念、基本方針の整理

取組の開始当初は、すべてが手探りの状態であり、UD の定義も不明確であったため、本公園における UD の考え方等をまず整理する必要がありました。

そこで、本公園における UD の目指すべき姿としての明確な基本理念、基本方針を共有し、本公園ならではの UD を推進するために、UD 検討委員会において多くの意見が交わされました。

基本理念、基本方針を設定するにあたり、最も重視したことは次の3点です。

- ① **アクティビティベースで考える**
- ② **マイノリティーのことを常に考える**
- ③ **サービス提供において、“できること”・“できないこと”を明確化する**

「① **アクティビティベースで考える**」とは、公園を訪れる人は公園を楽しむために来ており、公園でレジャーを楽しみたい、植物を鑑賞したい、景色を楽しみたい等、それぞれの楽しみ方（アクティビティ）を実現するために、どのようなUDの取組が必要かをハード・ソフト両面で検討するという考え方です。しかし、すべての人を対象に100%整備すること、例えば、全盲の方を対象に、施設の整備やプログラムの改善等を行うというようなことは困難です。そこで、全盲の方には介添え者の方がいることを前提とし、介添え者と一緒に楽しめるプログラムを提供することで折り合いをつける等、誰もが使えるシステムの中で対応していくこととしました。

「② **マイノリティーのことを常に考える**」とは、すべての人に本公園を楽しんで頂くために、障がいのある方や外国人など、利用者全体から考えると少数派である方々へ配慮することが、国営公園の使命であるという考え方です。例えば、外国人への案内をピクトグラム等で非言語化して伝えることは、日本語を理解できない人にも役立つはずですが、少数派の方々への配慮を一つ一つ丁寧に対応していくことが、すべての人々に楽しんで頂くための第一歩と考えました。

「③ **サービス提供において、“できること”・“できないこと”を明確化する**」とは、できること（UDに対応していること）だけでなく、できないこと（UDに対応していないこと）についても情報公開を行うことが重要だという考え方です。

UD は、すべての人が利用しやすい環境をつくることですが、これを完結させるのは容易ではなく、限界があります。例えば、障がいをお持ちの方がトイレを利用する場合、個々人の障がい等の特性が異なるため、すべての方が利用しやすい設備を用意するのは難しい面もあります。従って、障がいをお持ちの方にとって、トイレをはじめとする公園の施設設備がどのようになっているか、一人で利用可能かといった事前情報はとても重要です。そこで、本公園では、公園が準備・対応できていること、できていないことを明確化した上で、ホームページなどによる情報発信を行うことを重視しました。

以上のように、ハード面だけでなく、ソフト面の取組をあわせて進めること、特に情報発信を当初から重視していた点が本公園のUDの特徴と言えます。

このような考え方をベースにして基本理念と基本方針を下記のように明確にしました。

■ 基本理念、基本方針

基本 理念

海の中道海浜公園の自然や歴史文化を活かしながら、
すべての人がより一層訪れやすく、いろいろなことが
楽しめるように、ハード、ソフトをうまく組み合わせ
た総合的な取り組みを進める

基本 方針

○ハード面

- ・ アクティビティ（利用の仕方、楽しみ方）をベースに検討・対策を進める。
- ・ 整備する際には、極力特殊なものをつくらず、誰もが使え、楽しめるように工夫する。
- ・ 景観や自然環境の保全に支障をきたすような対策は行わない。
- ・ すでに開園している区域についても、五感を大切にしながら、公園のポテンシャルを最大限活かしていく。

○ソフト面

- ・ 施設情報のみならずアクティビティベースで分かり易い情報提供を行う。
- ・ 情報格差をつくらないよう配慮する。
- ・ 多様な市民の参加により、サポート体制およびソフト体制を充実させる。
- ・ 常にスパイラルアップを行い、できることから進めていく。

○ハード面・ソフト面共通

- ・ 公共交通機関や周辺地域とも連携していく。

4. アクションプログラムの策定

2007年度（平成19年度）に整理した前述の基本理念・基本方針等に基づき、『具体的にどのようにUDの取組を進めていくか』について2008年度（平成20年度）からUD検討委員会（第4～6回）においてアクションプログラム（行動計画）について検討を行いました。



第6回UD検討委員会の様子

	開催日	主な審議事項
第1回	平成20年2月18日	・現地視察 ・国営海の中道海浜公園の現況について ・ユニバーサルデザインのあり方について
第2回	平成20年3月7日	・ユニバーサルデザインの視点による基本方針について
第3回	平成20年3月18日	・ユニバーサルデザインの取り組み内容について
第4回	平成20年11月13日	・園内施設・プログラムの現状評価について ・5箇年計画アクションプログラムの素案について ・今年度の取り組み実施内容について
第5回	平成21年1月27日	・5箇年計画アクションプログラム修正案について ・今年度の取り組み中間報告
第6回	平成21年3月3日	・5箇年計画アクションプログラム最終案について ・今年度の取り組み結果報告

平成20年度のUD検討委員会の主な審議事項

公園は、「訪れることが目的ではなく、“楽しむ”ことが目的」の施設です。その施設特性を踏まえたUDの取組を整理する必要性がありました。

そのため、まず現状の施設が車いす利用も可能か、スロープ等設置されているかといったハード面のUD支援対策ができているか、ソフト面でサポートする仕組みがあるかどうかという観点から「園内施設・プログラムの現状評価」を行いました。

(1) 園内施設・プログラムの現状評価

まず、公園を利用するアクティビティ別に、特に利用者に人気があり本公園らしさを表している代表的な場所・プログラムについて、そのアクティビティを支援するハード・ソフト面のUDの取組が十分かどうかの評価を行いました。その結果、多くの施設で取組が不十分でした。そこで、その改善に向けた今後のUDの取組の方向性を整理しました。

◆本公園らしさを表す代表的な場所・プログラムの現状と今後の取組の方向性

アクティビティ	名称	現状の取組	今後の取組の方向性
1 レジャーを楽しむ	サンシャインプール	<ul style="list-style-type: none"> ・プール専用車いすの貸出し。 ・流水プールには車イス専用入り口を設置。 ・ウォータージャングルはプール専用車いすで利用可能。 ・身障者用更衣室を設置。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プールは利用者が大変多い施設のため、ハード対策に加え、利用をサポートする体制を構築する。
	大芝生広場	<ul style="list-style-type: none"> ・大芝生広場は取組なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大芝生広場は、広々とした空間を五感で楽しめるようにしつらえる。
2 スポーツを楽しむ	各種スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・広大な園内を利用した各種野外スポーツが可能。 ・障がい者等の利用を想定した取組はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の広さを活かし、障がい者も参加可能な野外スポーツやスポーツプログラムを導入する。
3 生き物と親しむ	動物の森 <ul style="list-style-type: none"> ・ポニーの乗馬体験 ・ふれあい動物体験 ・アニマルQ ・一日飼育員 	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす専用入口あり。 ・障がい者団体からの申し込みがあった場合は、職員全員で対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の取組をサポートするボランティアサポート組織を立ち上げる。
4 体験学習を楽しむ	青少年海の家等 <ul style="list-style-type: none"> ・海の中道 野外スクール 	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年海の家は車イス利用可だが、野外キャンプ場は対応していない。 ・プログラムはユニバーサル対応していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野外キャンプ場等、ハード面の整備と、誰でも楽しめる体験学習プログラムを開発する。
5 植物を觀賞する	フラワーミュージアム バラ園	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす利用可能。高く持ち上げたレイズベッドで、花やハーブの香りを楽しめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花の美しさを誰でも五感で楽しめるよう、視覚障がい等にも配慮した取組を行う。
6 景色を楽しむ	スカイシェルター	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす利用可能だが、植栽が高く車イスの視点を考慮していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが眺望を楽しめるように、車イスや子供の視点にも考慮した、植栽管理を行う。
7 食事・お茶を楽しむ	ワンダーシャトル	<ul style="list-style-type: none"> ・車イス利用可能だが、点字メニュー等の対応はしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが食事やお茶を楽しめる施設とソフト対応を行う。

(2) 利用者の意見を踏まえたアクションプログラムの策定

どのような取組が必要かを検討するにあたり、実際に公園を利用する利用者の意見を優先すべきだと考えました。そこで、公園利用者、福祉団体、公園スタッフにアンケート調査を実施した上で、その意見をもとに、今後UDの取組を推進すべき項目を絞り込み、2008年～2012年（平成20年～平成24年）の5箇年で優先的に取り組むべき項目として「5箇年アクションプログラム」を策定し、計画的に実行していくこととしました。

1) 利用者アンケート調査



利用者の視点に立った公園の現状を把握するために行った(1)公園利用者、(2)県内外の福祉団体、(3)公園スタッフに対するアンケート調査の実施概要と、その意見とアクションプログラムとの対応は以下の通り。





◆実施概要







項目	利用者アンケート	福祉団体アンケート	スタッフアンケート
調査方法	公園内での聞き取り調査	アンケート用紙を郵送、記入後回収	アンケート用紙を配布、記入後回収
調査実施日	平成 20 年 10 月	平成 20 年 10 月	平成 20 年 10 月
有効回答数	345 回答	28 回答	96 回答
回答者	健常者 妊産婦・乳幼児連れ 高齢者、外国人 障がい者	高齢者福祉団体 障害者福祉団体	窓口、案内、遊戯施設、指導員などの利用者に接するスタッフ

アンケート等をもとに、課題を抽出し、必要な対策の検討を行うことで、アクションプログラムの項目への設定へとつなぎました。

◆調査結果

UDの視点からの抽出された意見	必要な対策
<ul style="list-style-type: none"> ・石畳は車イスでは利用しづらい。 ・スロープがわかりにくい。またスロープが長い。 ・西駐車場から西口までベビーカーを持って階段を上がった。ベビーカー向きに改良してほしい。 ・マリンワールドの中にもっとスロープを増やしてほしい。エレベーターとの配置も工夫してほしい。ベビーカーを押していると順路通りに進めない。 	円滑に移動できるルートが必要  「1.ネットワークルートの設定・改善」を設定 (p I-12 参照)
<ul style="list-style-type: none"> ・日陰がほしい。緑陰を増やして欲しい。水飲み場が少ない。 ・木陰とベンチがセットであると良い。ベンチが少ない。 ・あってほしいところ（通り沿い）に木陰がない。 ・大観覧車には日陰が少なく、カウンターが熱くて利用者が大変。 ・デイキャンプ場に屋根を造ってほしい。 ・ドッグランエリア内に日陰が少ない。 	暑さ対策、休憩場所が必要  「2.暑さ対策の実施」「3.ベンチ配置改善」を設定 (p I-12 参照)

UDの視点からの抽出された意見	必要な対策
<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子用トイレが使いづらい。狭くて車いすで回れない。手すりの位置が高すぎる。トイレの扉は座っている所が自動的に開くようにスロープを短くしてほしい。 ・トイレに点字を入れてほしい。目が不自由なので分からない。 ・子供用トイレ、肢体不自由者・子供用のおむつ交換台が各所に欲しい。 ・子どもの授乳室、おむつ室等を増やしてほしい。 ・各施設に荷物の預かり所があるとよい。 ・園内のわかりやすい所に公衆電話が念のためあった方がよい(お年寄りが、園内で家族と離れたとき、携帯電話を持っていないことがあり、不安になる)。 ・駐車場からマリンワールドへの道程。屋根がないため、雨天時は車いす、ベビーカー、高齢者にとっては大変不便。 	<p>トイレをはじめとする園内施設の利便性の向上</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>「4.トイレ改善」「5.授乳室の確保」を設定 (p I-12 参照)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・無料日はいつか、またどのようにしたら事前を知ることが出来るのか。 ・利用料金等の案内、営業期間と時間。 ・サイクルポートの利用中止が早くわかればここまで来ない。 ・テレビの広告や紹介と異なることがある。行く動機となるので、正確な情報を。 ・中高年層はパソコンになじめない人が多く、その人たち向けの情報提供をどうするかを考えるべき。 ・花はどれくらい咲いていますか?という質問に対して、なんの情報もないので困った。花が咲く月の表などがあれば説明しやすい。 	<p>情報提供の改善</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>「6.情報提供システム全体の再構築」を設定 (p I-12 参照)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場の入り口が分かりづらい。どこを利用して良いか分からない。 ・公園の出入り口が分かりにくい。 ・現在位置、各施設の場所がよく分からない。こまめに案内情報が欲しい。案内を分かりやすくしてほしい。 ・歩行者用道か、自転車専用道か、パークトレイン用道か分かりづらい。 ・気分が悪くなった場合の案内看板がほしい。 ・看板が分かりづらい。大きい字で表示してほしい。 ・外国人のお客様が多くなってきているので、英語表示を増やしたり、音声ガイドを無料で貸し出す等するのも良いかと思う。 ・ワンダーワールド口は、外国人のお客様が多いため、外国人向けの案内板、特に韓国・中国・米国人向けの設置を希望。 ・入ってきた各ゲートが分かるよう、各ゲートに色分けすれば、お客様にゲートが1つではないことを分かってもらえるのではないか。 	<p>わかりやすい案内サインが必要</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>「7.通り名で道案内」「8.サインシステムの再構築による情報提供の改善」を設定 (p I-12 参照)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・広くてマップでの距離感が分からない。 ・マップのコースの色がないのでわかりにくい。 ・現在地が地図を見ても分からないので、マップの所に番号を入れ、園内に番号の看板を立てて、マップと照らし合わせられると分かりやすい。 	<p>パンフレットや公園ガイドの改善</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>「9.パンフレット等による情報提供の改善」を設定 (p I-12 参照)</p>

UDの視点からの抽出された意見	必要な対策
<ul style="list-style-type: none"> ・公園に来るまでの情報（渋滞情報など）を案内してほしい。 ・デイキャンプ場へのJRのアクセスが悪い。ちょうど駅と駅の間にある。 ・JR 駅員（海の中道駅）が不在の為、JR の新しい制度などについてスタッフで対応できないときがある。 ・JR を利用し、来園し、帰りは市営渡船を利用して帰るお客様が多く見受けられ、西戸崎渡船場の目印などがなく、園内から案内、説明がしにくい。 	<p>利用交通体系についても事前に情報提供が必要</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>「10.WEB サイトによる情報提供の改善」を設定（p I-12 参照）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・HP において季節の花の開花情報を写真で載せてほしい、公園内の写真をHP に掲載したらどうか。 ・海までの距離感がHP からは伝わってこない。海の風景の写真などをHP に掲載したらどうか。 ・HP にイベントのことが載っていない。 ・地図が見にくい。 ・園内のバリアフリー情報など、写真の掲載があると助かる。 	<p>ホームページの改善</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>「10.WEB サイトによる情報提供の改善」を設定（p I-12 参照）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんが遊べるようなイベント・環境を増やしてほしい。 ・お年寄り向けのイベントがあればよい（花のフェスティバル、アジア太平洋フェスティバルのようなもの）。 ・恒例イベントが少ない、簡単なコンサート（素人）などがあってもよい。 ・動物の森の動物スポンサーを募集してはどうか。 ・プログラム（ブリザードフラワー）の募集人数がわかりにくかった。 ・今日はイベントがあると思ってきたが特に何も無くてガッカリした。 	<p>参加型プログラムの改善</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>「11.参加型プログラム等・セルフガイド型プログラム」を設定（p I-12 参照）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・雨の日でも楽しめるようにしてほしい。 ・野草園や市民農園があると利用したい。 ・写真コンテストなどを定期的にしてはどうか（WEB と連携）。 	<p>セルフ型プログラムの改善</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>「11.参加型プログラム等・セルフガイド型プログラム」を設定（p I-12 参照）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・エリアスタッフでは分からない質問もある。 ・他エリアのスタッフで場所などの把握ができていない場合、利用者から質問されても地図を持っておけば問題ない。 	<p>スタッフのサービス向上</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>「12.公園スタッフのサポート技術の向上」を設定（p I-12 参照）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・接客対応・接客態度など、スタッフ間で問題意識を持っている。 ・間違った情報提供をして苦情を受けることがある。 	<p>スタッフの意識向上</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>「12.公園スタッフのサポート技術の向上」を設定（p I-12 参照）</p>

2) 5 箇年アクションプログラムの取組項目

1) の利用者アンケート結果をもとに、今後 5 か年で重点的に取り組むべき事項の方向性、取組項目、具体的な取組内容について「5 箇年アクションプログラム」として取りまとめを行いました。

取組項目は「1.ネットワークルートの設定・改善」から「12.公園スタッフのサポート技術の向上」までの 12 項目を設定し、これらの項目について計画的に取り組むこととしました。

◆利用者意見を踏まえたアクションプログラム取組項目の設定

取組の方向性	取組項目	取組の経緯と概要
園内施設の魅力向上・機能向上	1.ネットワークルートの設定・改善	障がい者を含むすべての人が様々なアクティビティを楽しめるようにすべきとの意見をうけ、公園の魅力を感じられる情報発信に向け、おすすめルートマップ等の検討を行った。
	2.暑さ対策の実施	園内の木陰が少なく、近年夏場は猛暑が続いていることから、高木の下枝伐採や低木の除去等による緑陰の確保等による暑さ対策の検討を行った。
	3.施設の利便性の向上(ベンチ配置改善)	利用者から休憩場所の少なさに対する不満が多かったため、ベンチ等の適正配置に対する検討を行った。
	4.施設の利便性の向上(トイレ改善)	オストメイトを含む多目的トイレが少なかったことや、バリアフリー新法等もふまえ、あらゆる利用者が使いやすいトイレの提供が必要との意見を踏まえ、適正な配置、車椅子での動線を考慮した工夫等の改善に向けた検討を行った。
	5.施設の利便性の向上(授乳室の確保)	ベビーカー利用者や乳児などの子連れ、妊婦への対応が不足していたため、利用者ニーズに沿った授乳室の新設や既設の充実の検討を行い、快適な環境整備を図った。
情報提供の改善・充実	6.情報提供システム全体の再構築	障がい者に必要とされる情報提供とは何か、外国人等に必要とされる情報提供とは何か等について議論し、トイレ位置情報をはじめ、アクティビティ利用時のできることや困難性情報の発信等、必要な情報発信について検討を行った。
	7.通り名で道案内	目的地までの道順の分かりにくさ、園内スタッフの案内のしにくさを解消する目的で、「さるく博'06」(長崎市)で行われた「通り名で観光案内」を参考に検討を行った。
	8.サインシステムの再構築による情報提供の改善	園内が広く現在地が分からないことや、多目的トイレの場所を案内する等、多様な人が利用する公園として、あらゆる人が見やすく、分かりやすい案内サインを目指し、園内ピクトグラムの統一や、サイン設置にあたってのマニュアル等の検討を行った。
	9.パンフレット等による情報提供の改善	外国人利用者が年々増加していることを踏まえ、園内移動の際、最も重要な情報である公園ガイドをすべての人に分かりやすい情報とするため、専門家や外国人を含む利用者意見等を踏まえ、改善に向けた検討を行った。
	10.WEBサイトによる情報提供の改善	障がい者、介助者にとって、WEBサイト情報等の来園前の情報は重要であることから、必要なUD情報を提供する目的で、掲載情報に関する検討を行った。
利用性の向上	11.参加型プログラム等・セルフガイド型プログラム	障がいのある人が参加者に含まれるイベントも重要であるとの意見を踏まえ、障がい者も参加できるアクティビティや実施する際の工夫等の検討を行った。
	12.公園スタッフのサポート技術の向上	障がい者等のおもてなしとして、公園スタッフの人的なサポート体制や心のバリアフリーが必要との意見を踏まえ、スタッフの意識改革、スキルアップに向けた研修等の検討を行った。

5. UDの取組の推進体制

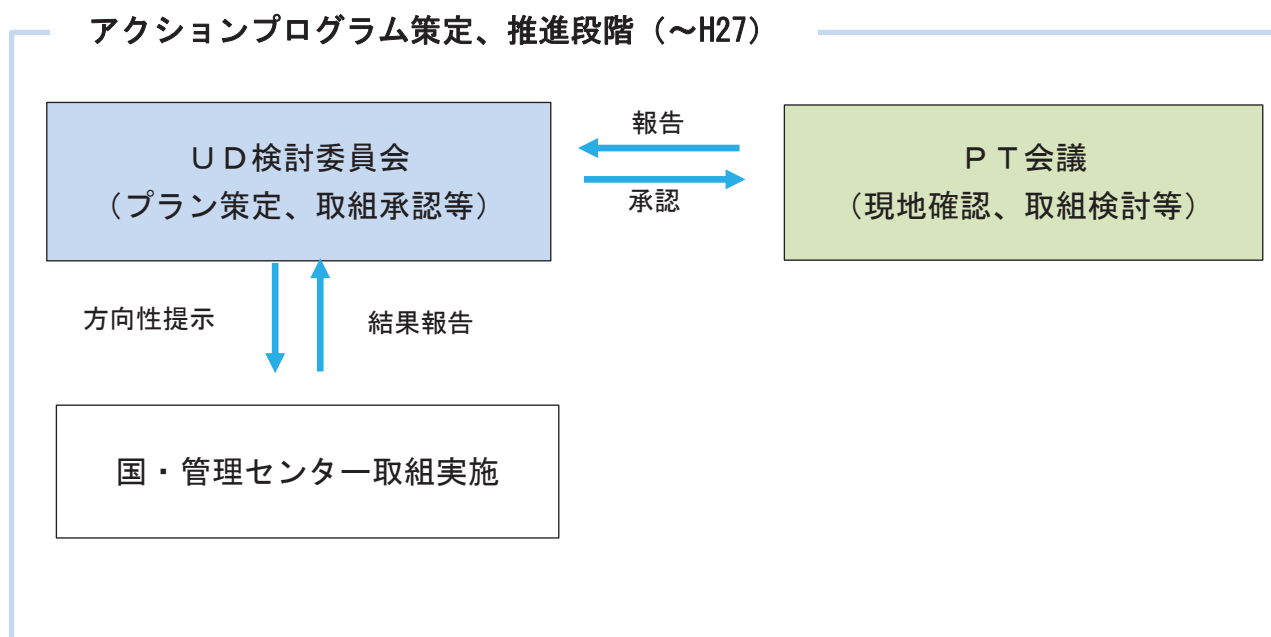
アクションプログラムを策定した後は、その速やかな取組をフォローアップしていくため、UD 検討委員会を中心とした推進体制を構築しました。

また、アクションプログラムの項目は 12 項目と多岐にわたることから、特に多くの議論が必要な項目については、小さい組織で機動性を持って取り組んでいけるようプロジェクトチーム（以下「PT」という）を設置し、個別の取組の検討、実施を行った上で UD 検討委員会へ報告するという体制としました。

PT の設置により、各項目の検討から実施までの時間、実施から評価までの時間が短縮したことや、各項目について並行して取組を進めることが可能となったことから、取組のスピードアップにつながりました。

UD 検討委員会は、PT による方向性の決定や取組結果の報告を受けつつ必要に応じて委員自らも現地確認を行い、専門的な立場で積極的にアドバイスを行うとともに、利用者やスタッフの声を聞くなど、現場のいろいろな異なる目線からの意見を重視しました。

そうして、実施機関である国や管理センターへ取組の方向性を提示しました。また、実施後は、その結果報告を受けて評価・再検討しながら、よりよい方向を探っていきました。



取組の推進体制

第3章 具体的取組の推進

2009年度（平成21年度）より、アクションプログラムの各項目について順次取組を開始しました。

以下に、各取組の経緯を示します。本編では、代表的な取組をいくつか紹介しています。本編で紹介した取組の事例及びその他の取組事例について、事例集に詳しく記載しています。

1. ネットワークルートの設定・改善

本公園では、障がいの種類ごとに園内でどのような活動や楽しみ方ができるのか、といったアクティビティ（利用の仕方、楽しみ方）をベースにUDの検討を行うことを基本としています。

その一つとして取り組んだのが、“季節によって変化する公園の魅力を、五感を使って楽しんで頂くためのおすすめルートマップをつくる”取組でした。

(1) 従前の取組の検証

本公園には、動物の森などの動物とふれあえる施設、バラ園などの目で楽しむ、香りを楽しむことができる施設など多様な施設がありますが、これらの施設の魅力を案内するおすすめルートが、UDの観点から十分であるかどうかの検証を行いました。

具体的には、①ホームページの「バリアフリー情報」の「おすすめエリア」の中で、動物の森エリアのおすすめルートとして紹介していた「お手軽散歩コース」、「ふれあい1周コース」、②ホームページ及びオフィシャルガイドブックの「園内のコースプラン」の中で「車いす・ベビーカープラン」として紹介していた2つのルートの検証を行いました。

検証にあたっては、福祉団体の方にも協力頂き、五感を使ってどのように楽しめるのかご意見を頂きました。



UD検討委員会の大河内特別講師とバラ園にてモニタリングを実施



UD検討委員によるどのように楽しめるかの検証



スタッフも障がいの疑似体験により五感を使った公園の楽しみ方を検証

(2) 課題の把握

検証の結果、既存のおすすめルートには、以下のような課題があることが明らかになりました。

- ・簡単に施設を案内しているだけのコース提案であるため情報が少ない。
- ・時間設定が健常者の歩く時間で想定されている。
- ・介助の必要な方が利用の可否を判断できる情報が無い。
- ・利用してほしい施設（見どころ）が不明である。
- ・公園ホームページで数種類のネットワークルートが提案されているが、それぞれが掲載されているページが異なるため一元化する必要がある。

(3) 課題解決の方向性

上記の課題を踏まえ課題解決の方向性を以下のように整理しました。

(ルート設定の考え方)

- ・誰もが遊べ、体感できるよう、楽しみ方の工夫が必要
- ・簡単な散策コースだけでなく、難易度の高いチャレンジコース等、利用者が楽しみ方を選択できるようなコース設定
- ・新たに施設を整備するのではなく、既存施設を活用した多様なプログラムの開発
- ・各エリアの多様な自然を五感で感じてもらう
- ・ネットワークルート上のトイレや休憩施設等の配置も考慮する
- ・福祉関係者や外国人等の協力を得てモニタリングを実施し、ネットワークルートを設定、改善する

(マップ作成の考え方)

- ・目的地までの所要時間であったり、消費カロリーであったり、ある程度の目安がわかると難易度もわかりやすく計画もたてやすい
- ・トイレや休憩施設等のバリアフリー情報も必要
- ・出来るだけ一人で楽しめるようなマップを作成する

(4) 取組の実行

課題解決の方向性に沿って以下の視点を重視した「五感で楽しめるおすすめルート」を作成し、実際に利用者に活用頂きながら、適宜改善を実施していきました。

(取組を進める上で重視する視点)

- ・すべての人に公園を楽しんでもらえるようなネットワークルートを設定し紹介する。
- ・動物を見て楽しむ、小鳥のさえずりを聞いて楽しむ、触れて楽しむ、草花の香りを楽しむ等、五感で楽しむことを重視する。
- ・利用者が目的（何を楽しむか）を選択できるよう、バリアフリー等の情報を提供する。
- ・全盲の方は介添え者を前提とする。
- ・難易度の高いチャレンジルートを設定する場合は、その魅力と困難性の情報を分かりやすく示す。
- ・整備の際には自然環境や景観の保全に十分配慮する。

各年度に行った取組の概要は以下の通りです。

2009年（平成21年）

- ネットワークルートの設定、試行（秋、冬）
 - ・事例1 利用者が楽しみ方を選択できるコース設定（事例集 pⅢ-3）
- 公園スタッフのおすすめの施設や場所を結んだ「おすすめルートマップ」の作成
 - ・事例2 おすすめルートマップの作成（事例集 pⅢ-4）
- 一般利用者によるモニタリング調査（秋、冬）を実施。



おすすめルートマップ（事例集 pⅢ-4）

2010年（平成22年）

- ネットワークルートの設定、試行（春、夏）
- 乳幼児連れ、福祉関係者、UD 委員による横断的モニタリング調査（秋）
 - ・事例3 横断的モニタリング調査(事例集 pⅢ-4)
- 本格運用に向け経費削減のため「おすすめルートマップ」を白黒に変更
 - ・事例4 白黒マップの工夫（事例集 pⅢ-5）
- 一般版のほかバリアフリー版のマップを作成
 - ・事例5 バリアフリー版マップの作成（事例集 pⅢ-5）



横断的モニタリング調査の様子（事例集 pⅢ-4）

2011年（平成23年）

- 「おすすめルートマップ」の本格運用開始
- さらに広い範囲に周知できるよう Web サイトに「おすすめルートマップ」を掲載
- 「おすすめルートマップ」一般版については、トイレ情報やおすすめ施設情報等、イベントチラシで代用できるものとし、バリアフリー版のみ作成することにより経費削減に努めた

2012年（平成24年）

- 「ネットワークルートの設定・改善のガイドライン」を策定
- 公園ガイドの改訂により「おすすめルートマップ」のベースマップを公園ガイドに変更

(5) 取組の成果及び今後の課題

この取組は、2011年度（平成23年度）の本格運用から試行錯誤を繰り返して、現在に至っています。



おすすめ施設マップ（2020年秋）

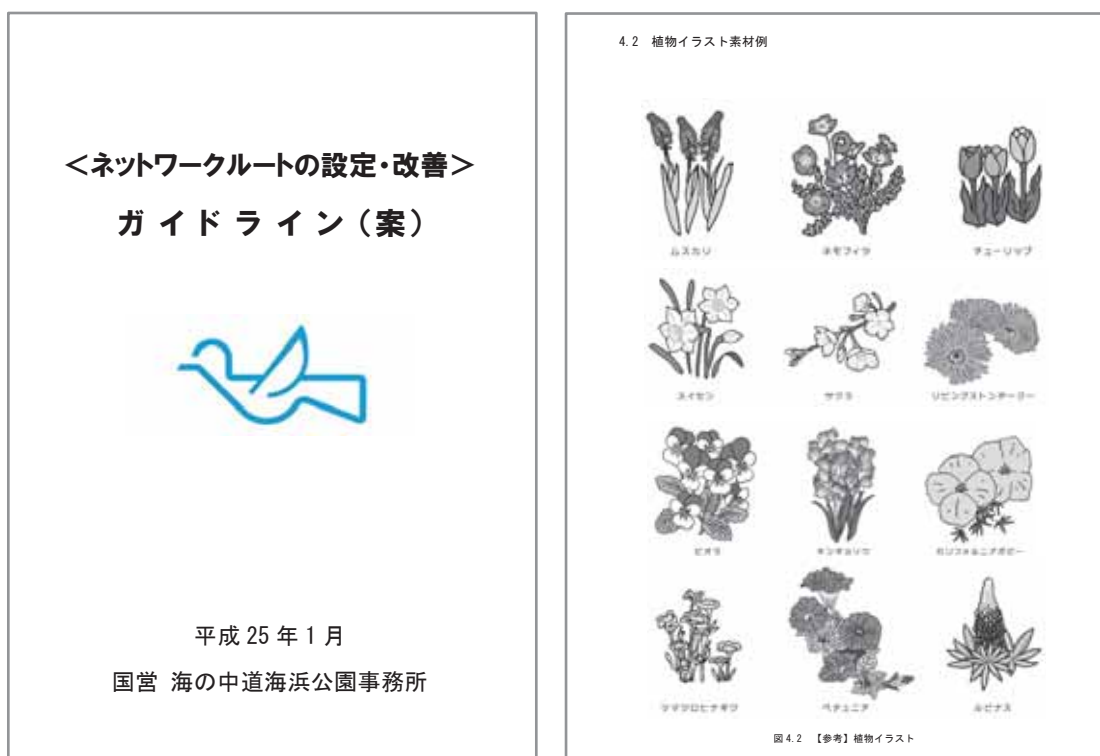
今後も継続的に試行錯誤しながら取組を進めていく必要がありますが、各所での取組の参考として頂くため、現時点での成果や感じている課題等を以下に記載しておきます。

(現時点での成果)

- ・ ネットワークルートの設定において、ただおすすめのコースを紹介するだけでなく、障がいをお持ちの方や高齢者、赤ちゃん連れのママ、それぞれの楽しみ方で楽しんで頂けるよう、「多くの選択肢」を提供することを重視した点は意義があったと考えられます。
- ・ 障がいの種類によっては、健常者よりも頻繁にトイレに行く必要があったり、赤ちゃん連れの方は、おむつ替えシートが設置されているトイレが必要だったりするため、特に「トイレの位置情報」をマップに掲載することは必須と考えます。

(課題)

- ・ 2008年度～2009年度（平成20年度～21年度）の試行結果をもとに、当公園における「ネットワークルートの設定・改善のガイドライン」を作成しましたが、利用者のニーズの変化や担当者の入れ替え等がある中で、ガイドライン通りの作成を継続することは難しいと考えました。
- ・ 2011年度（平成23年度）から、本格的に運用を開始しました。その際、配布枚数の増加を考慮して経費節約のため白黒印刷に変更しました。また、親しみやすいようマップをイラストにしたり、塗り絵ができるような白抜きの花のイラストを使用したり、読みやすい字体や大きさ、濃淡によるコントラスト等にも留意し、2013年（平成25年）1月にはガイドラインの改定を行いました。



ネットワークルートの設定・改善のガイドライン

- ・ しかし、「カラーの方が見やすい」という利用者の声もあって、2014年（平成26年）から再度カラーに変更。作成側の手間・経費の軽減と利用者側のニーズにどう折り合いをつけていくのが課題と感じています。

2. 暑さ対策の実施、ベンチ配置改善

本公園は砂地の上にあるため高木が生長しにくく、木陰が少ないという特徴があります。さらに公園の敷地が広いことから、施設間の移動途中で休憩施設（ベンチ）を要望する声があり、特に夏には暑さをしのぐための日陰が少ないことが課題となっていました。

一方、四阿やベンチを増設することは、予算上の制限があるのみならず、公園の自然豊かな景観を損なうことになり望ましくないと考えました。

そこで、できる限り既存資源を有効活用して、誰もが利用しやすい休憩場所となる日陰の創出に取り組みました。特に、長時間の利用を想定し、最低限必要な施設・備品を確保し、利便性の向上を図りました。

(1) 従前の取組の検証

公園の暑さ対策、休憩施設の現況調査を行い、どこにどのような休憩施設があるか、利用者のニーズ等について見える化を図りました。

- ・ 日陰の確保及びベンチの利用実態調査
- ・ 四阿やベンチの設置状況調査
- ・ 「利用者アンケート」によるベンチの利用実態調査
- ・ 障がい者団体の協力による現地調査

(2) 課題の把握

検証の結果、暑さ対策として、以下のような課題のあることが明らかになりました。

- ・ 必要な場所に休憩施設がない
- ・ 特に夏は暑さをしのぐための日陰が少ない
- ・ ただし、景観や予算を考慮すると、大幅な休憩施設を増設は困難

(3) 課題解決の方向性

上記の課題を踏まえ、課題解決の方向性を以下のように整理しました。

(緑陰の確保)

- ・ 樹木などの自然の恵みを生かした緑陰を創出する
- ・ プランターによる高木設置を検討する
- ・ 果物など食べられる実がなる樹木を増やし、暑さ対策と同時に楽しみも創出する
- ・ 高木の下枝伐採や低木の除去等により緑陰空間を創出する

(ベンチ増設による賑わいやコミュニケーションの場づくり)

- ・ ベンチのある空間づくりを推進し、楽しさや安心感、憩いの場を創出する
- ・ 全体的な数の問題ではなく、必要な場所に必要数がないことが問題なので、季節やイベントに合わせてベンチを移動できるよう可動式ベンチを取り入れる
- ・ ネットワークルート上に、ベンチ（休憩箇所）を設置する
- ・ 状況に応じ、必要な場所には四阿やベンチ等の増設を検討する

- ・ベンチはユニバーサルデザイン対応とする

(その他)

- ・ 脊髄損傷者などは上半身だけで汗をかく等、障がいの程度により日陰の要求度が異なることに留意する
- ・ マイツリー登録やマイベンチ登録などによる寄付行為を検討

(4) 取組の実行

日陰の確保については、既存資源を有効活用する工夫として、園内の高木の下枝を伐採することで緑陰空間をつくりました。

ベンチの配置については、需要の多い箇所から優先的に整備し、季節やイベント等により需要が増減する箇所には、可動式ベンチの導入も検討しました。

休憩施設の整備においては、車椅子やベビーカー等での利用も考慮し、園路からのアクセス路の確保も併せて検討しました。

各年度に行った取組の概要は以下の通りです。

2010年（平成22年）

- 職員総出の下枝伐採による緑陰の確保
 - ・ 事例1 下枝伐採による緑陰の創出（事例集 pⅢ-6）
- 利用実態調査に基づいて、必要な場所へのベンチの新設や移設の検討、イベントや季節に応じたベンチの移動の検討
 - ・ 事例2 可動式ベンチの設置（事例集 pⅢ-7）
 - ・ 事例3 利用ニーズに応じた施設配置（事例集 pⅢ-7）
- ユニバーサルデザイン対応のベンチへの改修、休憩施設へのアクセス路の改善検討
 - ・ 事例4 ユニバーサルデザイン対応ベンチへの改善（事例集 pⅢ-7）



下枝伐採による緑陰の創出（事例集 pⅢ-6）

2011年（平成23年）

- ワンダーワールドのリニューアルに合わせた日陰の確保の検討
- 2010年度（平成22年度）に検討したベンチ整備計画について検証を行うため、利用が多い場所にはUDに対応したベンチを、海沿いにはリクライニングベンチを配置し、試行
- 春や秋は花のエリアに、夏はプール周辺にベンチを移動する配置計画検討
- 下枝伐採による緑陰の確保の継続
- ベンチの新設、改修の継続
- 可動式ベンチの導入



試行に使用したベンチ



使用状況



(5) 取組の成果及び今後の課題

暑さ対策としての日陰・休憩施設の確保という目的のほか、景観保全、視通改善による移動円滑化、公園の安全・安心といった副次的な効果も得られました。

（現時点での成果）

- ・ 木陰で涼む利用者が多くなり、さらにベンチを配置することで、ゆっくりくつろぐ利用者も増えました。
- ・ 日陰として緑陰や林床を利用することにより、公園の景観の保全にも効果的であり、利用者には好評を得た。
- ・ また、下枝を伐採することにより、移動の際の目的地の視認につながり、目的地までの円滑な移動が可能になった。さらに、不審者等が隠れる場所が減少し、安全性が向上した。
- ・ 2011年（平成23年）に実施した試行で、海沿いにリクライニングチェアを設置したところ、チェアで読書をする姿も見られた。公園のポテンシャルが活かされ、公園を楽しむ場所を提供できた。

（課題）

- ・ 最近では、ワンタッチテントを持ち込み芝生や緑陰に設置する等、日陰・休憩場所の形態も変化している。多様化する利用形態を踏まえて臨機応変に対応できるような「自由度の高い環境づくり」が公園に求められている。

3. トイレの利便性向上

当時は、2002年（平成14年）に策定した整備計画に基づき、トイレの改修を実施していました。しかし、2006年（平成18年）に施行されたバリアフリー新法に基づき、改修計画を見直す必要がありました。

特に、広大な面積を持つ当公園で、長時間快適に滞在してもらうためには、トイレの整備は非常に重要と考えました。

(1) 従前の取組の検証

トイレ整備において、ただバリアフリー基準（例えば、広さや床面の滑りにくさ、出入口の幅員等）を満たすだけでなく、ベビーチェアや多目的シート、オストメイトといったバリアフリー機器や機能の適切な設置、さらにトイレへのアクセスや待機者のためのベンチといった周辺環境まで含めた整備が必要と考えました。

具体的には、当公園にあるトイレについて調査し、先述したバリアフリー基準及びバリアフリー機器・機能の設置有無、周辺環境について現状評価を行いました。

さらに、実際の利用者・介助者となる立場の方からの意見を聴取するために、福祉団体にご協力頂き、ヒアリング及び現地検証を行いました。



便器洗浄器具スイッチがレバーしかない（ボタン式が望ましい）



操作部が体の後方にくるため操作しにくい（前方に配置が望ましい）



アクセス路が石畳のため車いすやベビーカーの使用時に不便

(2) 課題の把握

トイレの現況評価と福祉団体のヒアリング・現地検証から、以下の課題が明らかになりました。

<障がい等の種類によって利用困難>

- ・園路からトイレに至るアクセス路の段差等
- ・身長の高い小学低学年までの幼児・児童の単独利用のため床置き式小便器または、それに類する小便器
- ・小便器の手すり
- ・出入口の有効幅員の基準(80cm)（基準以下では車いすでの通行に支障がある）
- ・入口前の広さの基準(150cm×150cm)（基準以下では車いすでの通行・回転に支障がある）
- ・オストメイトの適切な配置。

<配置的に孤立している個所への多目的トイレの設置>

- ・海の家周辺、西駐車場に基準を満たすトイレがない

<利用者の移動動線上から見て利用頻度が高いトイレ>

- ・ゲート及び主要施設周辺の利用頻度が高い箇所における基準を満たすトイレの数の見直し

(3) 課題解決の方向性

上記の課題を踏まえ、課題解決の方向性を以下のように整理しました。

- ・オストメイトが使える多目的トイレの増設
- ・車いすを押して1時間歩いたら1つトイレがある間隔で設置
- ・日陰、ベンチ（トイレの周辺環境）もセットで考慮する
- ・トイレの呼び出しボタンの位置（肢体不自由者が転倒した場合を配慮）
- ・ベビーカーを押して入ることを考慮し、広さや清潔さへの配慮
- ・すべてをフルスペックに整備する必要はなく、適切な場所、数、機能を検討する
- ・「トイレカルテ」を作成
- ・車いすでの動線や同行者の待機等を考慮し、トイレへのアクセス路や周辺ベンチの配置を検討
- ・トイレの周りの樹木について、セキュリティ上好ましくない。離れた場所からの視認性向上のためにも隠さず分かりやすくする。
- ・トイレ及び授乳室のマップについて、随時 Web で情報を公開する
- ・ピクトグラム等を使用し、場所が分かりやすいよう掲示する

(4) 取組の実行

トイレ整備については、作成した「トイレカルテ」に基づいて、整備の優先順位を決定し、順次整備を実施しました。

各年度に行った取組の概要は以下の通りです。

2009年（平成21年）

- 園内のトイレの現状を調査し、バリアフリー適合状況の確認
- トイレカルテを作成
 - ・事例1 トイレカルテの作成（事例集 pⅢ-8）
- 福祉団体の協力のもと、ヒアリング及び現地検証
 - ・事例2 モニターの声を踏まえた設備改善（事例集 pⅢ-9）
- トイレマップを作成し、Web サイトに反映
 - ・事例3 トイレマップの作成と Web への反映（事例集 pⅢ-9）

福祉団体へのヒアリング及び現地検証結果

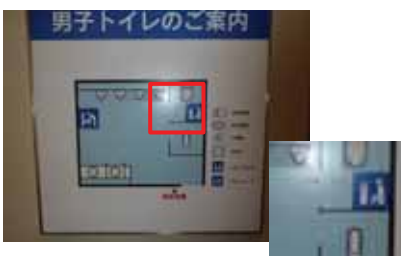
意見項目	意見内容
オストメイトの必要性について	・重複障がいの方が今後増えることが予測されており、オストメイト対応トイレの適切な配置の検討が必要。
子供用トイレについて	・子供用トイレの利用率は低い。
ベビーシートの必要性について	・ベビーシートの利用率は高い。 ・乳幼児連れの方は、事前に整備が整っている場所を選んで遊びに出かけることが多いため、トイレ機能の情報開示をする必要がある。 ・障がい者のみでなく、乳幼児連れの方は、多目的トイレを使用することが多い。多目的トイレへのベビーシートの設置、多目的トイレの無い一般トイレについては、男女にベビーシートの設置を推進する。
電動カートによるトイレ利用	・便器横に電動カートを横付けできるぐらいのスペースがない場合、便座への移動が出来ず、利用不可能である。 ・電動カートによるトイレの利用可・不可情報を提供する必要がある。
呼出しボタンの位置	・障がい者は、便座の上から滑り落ちる事が多く、呼出しボタンの複数設置や設置場所を検討する。
多目的トイレの便座右の手すり間の幅	・左右の手すりどちらかが可動式であれば服の着脱時に問題ない。 ・固定式の場合、75cm以上であれば十分着脱できる。それ以下の場合、片側を可動式へ改良が必要。
多目的シートの必要性	・介護が必要な方は、トイレ後に着替えを行ったりする場合があるので、多目的シートの拡充が望ましい。
トイレ案内板の点字表示	・周辺施設の視覚障がい者対応の進捗を見つつ、点字表示を図る(現状では園内全体が視覚障がい者対応されていない)。 ・点字表示を図る優先順位としては、介助者の同伴が想定される外側よりも、一人になると想定されるトイレ内部から行う。

2010年(平成22年)

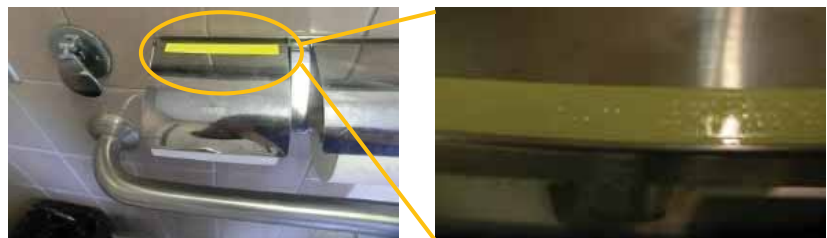
- トイレ改善については順次改善

2011年(平成23年)

- トイレの点字サイン案の検討、洗浄操作の点字シール試行



トイレ案内板の点字表記



「洗浄操作」の点字シール設置状況

トイレ外側の案内板には点字表記があったが、トイレ内部では同伴者もなく一人になると想定されるため、外側よりも点字表記の必要性が高いと考えた。

(5) 取組の成果及び今後の課題

トイレの整備に関しては、2012年度(平成24年度)に既設24箇所については改修が終了しました。それ以降も、トイレの老朽化や利便性の向上のための再整備、新規開園エリアにおける新設等において、UD観点を踏まえた整備を継続しています。



5 箇年アクションプログラム期間中のトイレ改修及び新設設備状況図

以下に具体的な成果と課題を示します。

(現時点での成果)

- すべてのトイレをフルスペックで整備することは困難であり、非効率です。どの特性の方がどの機能を必要としているかを考慮し、エリアごとに最低 1 つ以上の多目的トイレを確保しています。
- すべての人にとって、公園に長時間快適に滞在するためにトイレ情報は必要と考えます。特に、障がいをお持ちの方や赤ちゃん連れの方等にとっては、来園を判断する際の選択肢の一つであると考え、トイレ情報（多目的トイレ情報）を Web 上で公開しています。
- 公園のポテンシャルの一つである樹木を伐採することに抵抗がありましたが、トイレ周辺の樹木を伐採することにより、離れた場所からのトイレの視認性と不審者の隠れる場所をなくすという点において安全性が向上したと考えます。

海の中道海浜公園トイレ情報

◆大芝生広場・森の家エリア

地区 番号	名称	男子		女子		多目的 対応付	ベビー シート	多目的 シート
		形式	洋式	形式	洋式			
1	森の家	-	1	1	1	1	○	-
2	スカイドルフィン近くトイレ	-	1	1	2	-	-	-
3	スカイドルフィン多目的トイレ	-	-	-	-	1	-	-
4	大芝生広場トイレ（動物の森正門前）	-	1	1	2	-	-	-
5	大芝生広場レストハウス	1	1	2	2	1	1	○
6	大芝生広場トイレ（フラワーミュージアム横）	-	1	1	2	-	-	-



森の家多目的トイレの様子



大芝生レストハウス 多目的トイレの様子

R2 年度ホームページで公開しているトイレ情報（一部）（事例集 pⅢ-10）

(課題)

- 外国人の来園者の増加に伴い、トイレの利用方法がわからないことによるマナーの低下がみられる。多国語での利用方法の案内や外国人の習慣の理解等、対応を検討する必要があると考えます。

4. 授乳室の利便性向上

授乳室は、取組開始当時、ロッカールームを兼用していたり、個室になっていなかったり、周知されていなかったりと、利用しやすい状況とは言えませんでした。

また、赤ちゃん連れの来園者の増加に伴い、授乳室の整備は緊急の課題でした。

(1) 従前の取組の検証

子供の広場管理棟、動物の森レストハウス、大芝生広場レストハウス、マリンワールドに設置されている4箇所の授乳室に関して、UDに関する関係法令等の適合状況調査及び利用者へのアンケートを実施しました。



ロッカールの奥に授乳室が設置されているため利用しづらい



授乳室内が薄暗い



おむつを替えるスペースと授乳スペースが一緒になっている

(2) 課題の把握

授乳室については、関係自治体等の条例に照らし合わせて、一般的に必要な授乳室設備はおおむね揃っていましたが、しかし、利用者アンケートからは、法令基準外の事項ではあるものの、UDの観点から必要と考えられる以下のような改善点が把握できました。

- ・授乳室の存在や位置を把握できず「授乳室が不足している」と感じている利用者がある
- ・カーテン等による個室化、設備（ベビーベッドやいすの増設等）の充実、新設の要望

(3) 課題解決の方向性

上記の課題を踏まえ、課題解決の方向性を以下のように整理しました。

- ・広さや清潔さに配慮した授乳室の整備
- ・授乳室に関するアンケートやセキュリティ面なども考慮した授乳室の新設と既設授乳室の充実
- ・特にセキュリティ面を考慮し、授乳室付近にスタッフが常駐していることが望ましい
- ・セルフアンケートの実施、アンケートを踏まえた改善の実施
- ・ベビーカー利用者や兄弟児連れ、妊婦といった多様な利用者を想定し、移動困難性の解消やサポート体制の充実
- ・トイレ及び授乳室のマップについて、随時 Web で情報を公開する
- ・ピクトグラム等を使用し、場所が分かりやすいよう掲示する

(4) 取組の実行

既設の授乳室については、利用者の声に基づいて順次改善を実施しました。新設の授乳室については、利用者の利便性に加え、セキュリティや経済性も考慮し場所、内装、必要な設備等を検討しました。

各年度に行った取組の概要は以下の通りです。

2010年（平成22年）

- 授乳室の設置状況確認及び利用実態調査
- 既設の授乳室の改善
 - ・事例1 アンケート結果を踏まえた既存施設の改善（事例集 pⅢ-11）
- 赤ちゃんの駅登録

2011年（平成23年）

- 授乳室の新設を見込んで授乳室を2箇所暫定設置
- 新設する2箇所の授乳室の検討
- 授乳室のモニタリング調査の実施し、随時改善
 - ・事例2 授乳室のモニタリング調査（事例集 pⅢ-12）

2012年（平成24年）

- 2箇所の授乳室の新設
 - ・事例3 利用者のニーズを踏まえた授乳室の新設（事例集 pⅢ-13）

(5) 取組の成果及び今後の課題

授乳室の整備に関して、2014年度（平成26年度）に実施したアンケート結果では、施設の間所が分かりやすかった(82%)、使いやすかった(87%)、清潔感が保たれている(95%)、気になるにおいなどがない(88%)など、高い評価を得ることができました。

場 所	施設の間所は分かりやすかったですか。				使いやすかったですか。				清潔感が保たれていますか。				気になるにおいなどがありましたか。			
	分かりやすい		分かりにくい		使いやすい		使いにくい		保たれている		保たれていない		ない		ある	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回
インフォメーション	59	140	15	39	45	155	47	41	65	176	4	5	62	172	35	8
大芝生レストハウス	6	49	0	2	8	52	1	2	8	52	1	2	6	54	5	0
西口	0	5	0	4	0	8	0	1	0	8	0	0	0	8	0	0
子どもの広場管理棟	13	54	0	5	10	54	1	2	11	54	0	10	7	46	3	30
動物の森レストハウス	12	18	1	10	11	29	2	1	12	24	1	1	13	22	0	4
森の家	3	8	0	0	3	9	0	0	3	9	0	0	3	8	0	0
合計	85%	82%	15%	18%	60%	87%	40%	13%	94%	95%	6%	5%	68%	88%	32%	12%
	93	274	16	60	77	307	51	47	99	323	6	18	91	310	43	42

前回・・・H25. 10～H26. 01
 今回・・・H26. 02～H26. 10

授乳室利用者のセルフアンケート結果（平成25～26年度）

以下に具体的な成果と課題を示します。

(現時点での成果)

- ・授乳室の設置において、既設の施設を改善し授乳室として整備することで、整備コストを抑えることができ、また、スタッフも常駐していることから、セキュリティの面においても安全が確保された。
- ・既設の授乳室に関しては、赤ちゃん連れのママを対象にしたモニタリング調査を実施することにより、「においが気になる」「荷物をおく場所がない」「兄弟児がいる場所がない」等の法令基準にはないがUDの観点から必要と思われる改善が可能となった。
- ・授乳室の周知について、福岡市の赤ちゃんの駅に登録し、多くの利用者に親しみのあるマークを使用することで授乳室の位置を認知できるようにした。さらに、公園ガイドやおすすめルートマップに授乳室の位置を示すとともに、その情報を Web で公開し、授乳室の認知度を向上させた。



「赤ちゃんの駅」
マーク

(課題)

- ・赤ちゃん連れの来園者の増加に伴い、授乳室の需要も高くなっているため、おむつ替え利用に関しては、トイレのベビーシートの利用を推進する等の対策も必要。
- ・そのため、多目的トイレだけでなく、一般男性・女性トイレへのベビーシートの設置を推進する必要がある。

5. サインシステムの再構築による情報提供の改善（1）

本公園は広大な敷地を有しているため、利用者から「園内の道が分かりにくい」「迷いやすい」といった声が多く寄せられ、課題となっていました。

本公園では、当初より園内案内の基本的なサインシステムが決められていましたが、開園 30 年を迎えた当時は、園内の木々の成長による空間認識の変化や開園エリアの広がり等による園路の複雑さなどに起因して、サインの乱立や規格外のものを含む仮設サインの増設が重なり、サイン体系が無秩序で分かりにくいものになっていました。また、UD に対応していないものや情報が不適切なものもありました。

そこで、園内のサインシステムの見直しを行い、UD に対応したサインシステムの構築（サインマニュアルの策定）を図りました。

(1) 従前の取組の検証

園内のすべてのサインを対象に、現地調査によりサインの設置状況を確認し、UD の観点から評価しました。

(2) 課題の把握

検証の結果、サインによる情報提供において以下のような課題があることが分かりました。

- ・ 表示内容の不統一
(施設名称、ピクトグラム、外国語表記等)
- ・ 類似する表記内容のサインが隣接している
- ・ 色やコントラストの表現が不適切
- ・ 車いすからの視認性が悪い
(園路から離れているため側に近づいて見ることができない、設置位置が高い等)



類似する表記内容のサインの隣接



女性を示すマークが青地に赤（右）より青地に白（左）の方が見えやすい



(3) 課題解決の方向性

上記の課題を踏まえ、課題解決の方向性を以下のように整理しました。

(目的地まで円滑に到着できる工夫)

- ・ ランドマークや目的地の視認性向上等をいかし、サインに頼りすぎない円滑な移動を推進する再整備を実施
- ・ 進行方向を示すサイン

(多様な人が理解できる表記方法への統一)

- ・外国人の視点からもサイン環境の見直しを行う
- ・字が大きくコントラストがはっきりした案内板は、色覚障がい者や高齢者に分かりやすいだけでなく、健常者にも分かりやすい。
- ・サインに表記する施設名の統一（公園ガイドとの統一）

(4) 取組の実行

(サインマニュアルの策定段階)

課題解決の方向性に沿って以下の視点から成るサインシステムの構築を図り、統一規格としてのサインマニュアルを整備しました。検討にあたっては、試行サイン（仮設）を用いたモニタリング調査により、実際に利用者に分かりやすいか確認しながら、評価・改善を重ねました。

- ・サイン体系を確立させる。
- ・新公園ガイドでの施設紹介と整合させ、各サインで表記する施設のヒエラルキーを設定する。
- ・ランドマークや新公園ガイド等を活用し、サインに頼らない手法のあり方を構築する。



試行用仮設サイン設置の様子



撤去予定のサインは、サインを隠して試行



モニタリングの様子

本公園のサインは、誘導サインが多くマップサインが少ない点が特徴でした。そのことが、サイン体系を複雑化している要因の一つであり、利用者がわかりにくいと感じている点でした。

わかりやすい案内にするためには、現在地と目的地の位置関係を明確にする必要があり、主要エリアの入り口や交差点にはマップサインを新設することにしました。さらに、目的地や目安となる施設が視認できるよう視界を遮っている低木や枝を伐採することで、誘導サインの設置を最小限に抑えました。

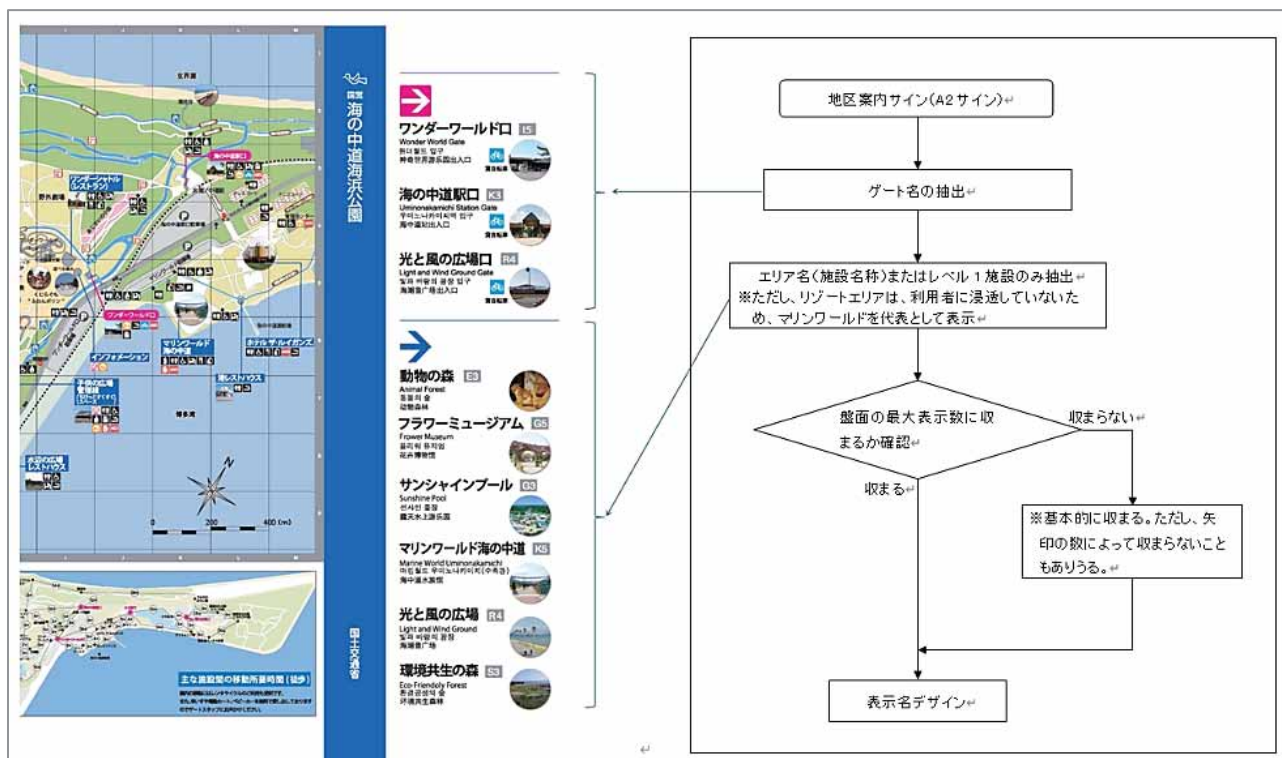


植栽によりホテル入り口やサインが認識できない



植栽カットにより、新たにサインを設置せずとも、ホテルの入口、ホテル駐車場の入口が容易に確認できる。

誘導サインについては、表示する施設名や表示するレベル等を統一し、よりシンプルでわかりやすいサインとしました。さらに、表示する施設名を公園ガイドと連携することにより、公園ガイドのセルフガイドツールとしての活用を促進し、サインに頼らない案内を目指しました。



サインで表記する施設の選定例（地区案内サインの袖部）
（サインマニュアルより抜粋）

各年度に行った取組の概要は以下の通りです。

2011年（平成23年）

- ケヴィン・リンチの手法を用いてサイン体系の確立や A1・A2 サインの配置計画検討等、サインシステムを再構築
 - ・事例1 ケヴィン・リンチの手法（事例集 pⅢ-14）
- 視界を遮る低木等伐採による見通しの確保
 - ・事例2 ランドマークとなる施設の強調（事例集 pⅢ-15）
- サインの更新計画、維持管理計画検討
- サインマニュアルの改訂
 - ・事例3 ピクトグラムの統一（事例集 pⅢ-15）
 - ・事例4 外国人の意見も踏まえた4カ国語表記（事例集 pⅢ-16）

2012年（平成24年）

- 仮設サインを配置し、モニタリング調査による検証を実施
- モニタリング調査結果をもとに、昨年度検討したサインの更新計画、維持管理計画の見直し
- 少し離れた場所からでもトイレが認識できるようトイレの案内サイン(表示サイン)の改善
・事例5 トイレの案内サインの改善（事例集 pⅢ-16）
- 音によるゲート認識試行
・事例6 音によるゲート認識（事例集 pⅢ-17）
- サインマニュアルの策定

2013年（平成25年）

- 視界を遮る低木等伐採による見通しの確保の継続

2014年（平成26年）

- 公園ガイド改訂に伴い、マップサイン（A1,A2 サイン）のベースマップを修正

2015年（平成27年）

- サイン現状調査を実施し、サイン台帳を作成
- サイン更新計画策定、撤去サイン実施設計、新設サイン実施設計、既設サイン改修実施設計
- サインマニュアル更新

（5）取組の成果及び今後の課題

体系的なサインマニュアルが策定され、本公園のサインシステムが確立しました。2015年度（平成27年度）からは、2012年度（平成24年度）に見直されたサインの更新計画、維持管理計画に基づいて、サイン改修の実施設計を行い、サイン整備に取り組んでいます。

しかし、サインの現状を台帳としてとりまとめるため、公園内のサインを網羅的に調査したところ、当初の予想をはるかに超える1,000以上のサインが設置されていることが分かり、整備を進めてはいるものの完了には至っていないのが現状で、台帳の整備と継続的な更新が課題です。

6. アクションプログラムの成果と今後の課題

以上のように、2008年～2012年（平成20年～平成24年）にかけてのアクションプログラム（行動計画）及び2013年～2015年（平成25年～平成27年）の3年間のフォローアップという形でUDの取組を実施しました。

8年間で実施した12のアクションプログラム項目それぞれについての主な成果と課題は次頁の表のとおりであり、その概要は以下の通りです。

○「園内施設の魅力向上・機能向上」（取組項目1～5）

- ・ネットワークルートの設定、暑さ対策、ベンチ配置、トイレ改善、授乳室の確保については、利用者の声を聞きながらの軌道修正、限られた予算の中での取捨選択、職員・スタッフ自らの労力による整備など、試行錯誤しながら取組を実施。
- ・試行錯誤の連続ではあったが、取組を止めることなく推進したことにより、トイレの改修、授乳室の設置など整備が進み、一定の効果が得られた。

○「情報提供の改善・充実」（取組項目6～10）

- ・通り名で道案内は本公園になじまずに別の案内方法を検討することとなった。
- ・公園内のサインの再構築は、サインマニュアルの策定とその継続的な見直し等により継続的な情報提供の改善に繋がっている。
- ・外国人利用者の増加、ランドマーク機能を有していた大観覧車を2015年（平成27年）に撤去したこと等により、情報提供や案内の新たな課題も発生している。

○「利用性の向上」（取組項目11,12）

- ・参加型プログラムの開発やスタッフのサポート技術の向上など様々な取組を試行錯誤しながら実施した。
- ・継続的なスキルアップを実施していく必要があるが、外国人利用者の増加、異常気象（猛暑、豪雨災害の増加等）などの社会情勢の変化に伴う利用者ニーズの多様化への対応、安心安全の確保方策の一層の充実に向けた取組が必要となっている。

アクションプログラムの成果と今後の課題

取組の方向性	取組項目	狙い	成果	課題	対応の方向性
園内施設の魅力向上・機能向上	1.ネットワークルートの設定・改善	五感を使って楽しんでもらうため、ルートマップを作る。	<ul style="list-style-type: none"> 多様な利用者に合わせた多くの選択肢を提示することができ、本格運用を開始している。 「ネットワークルート設定・改善のガイドライン」を策定した。 	<ul style="list-style-type: none"> 予算面、人員面の制約による継続的な取り組みの難しさ。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでのノウハウを活かして手間を軽減しつつ有益な情報提供を行っていく。
	2.暑さ対策の実施	夏季を中心に誰もが利用しやすい休憩場所となる日陰の確保。	<ul style="list-style-type: none"> むやみに四阿やテントを設置せず、下枝を伐採し緑陰を確保したことで、公園の景観の保全につながった。 また、視通改善の効果もあり、目的地までの円滑な移動が可能になった。 	-	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に実施。
	3.施設の利便性の向上 (ベンチ配置改善)	特に長時間滞在してもらう場合に最低限必要な施設（ベンチ）の確保や利便性の向上。	<ul style="list-style-type: none"> 均一にベンチを配置するのではなく、必要な場所に適切に配置した。 季節やイベントに合わせてベンチを移動できるよう可動式ベンチを取り入れた。 	-	<ul style="list-style-type: none"> 今後も場所や季節に応じてテーブル、イス等をメリハリをつけて配置。
	4.施設の利便性の向上 (トイレ改善)	特に長時間滞在してもらう場合に最低限必要な施設（トイレ）の確保や利便性の向上。	<ul style="list-style-type: none"> 公園のトイレについて、どこにどのような機能を持ったトイレがあるかを事前に情報収集できるようにした。 多目的トイレの設置の推進、既設トイレ 24カ所の改修完了。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き老朽化等に伴う継続的な更新が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的なトイレの改修等を実施。
	5.施設の利便性の向上 (授乳室の確保)	特に長時間滞在してもらう場合に最低限必要な施設（授乳室）の確保や利便性の向上。	<ul style="list-style-type: none"> 新たな授乳室 2カ所の設置（セキュリティ及び経済性を考慮して既存の施設に併設） 利用者意見を踏まえた授乳室の改善 	-	<ul style="list-style-type: none"> 今後も利用状況に応じた施設の充実等を図る。
情報提供の改善・充実	6.情報提供システム全体の再構築	誰もが入手しやすくわかりやすい情報の提供。	<ul style="list-style-type: none"> 「提供する情報の表現内容・方法に関するガイドライン」を策定した。 	-	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、すべてに対応するのではなく、どこまで対応しているのかを適切に情報発信していく。
	7.通り名で道案内	通り名による道案内。	<ul style="list-style-type: none"> 通り名による道案内は、本公園にはなじまず断念した。 	<ul style="list-style-type: none"> 園路が多すぎるなどにより通り名が定着しなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 路面標示等の別の案内方法の試行を検討。

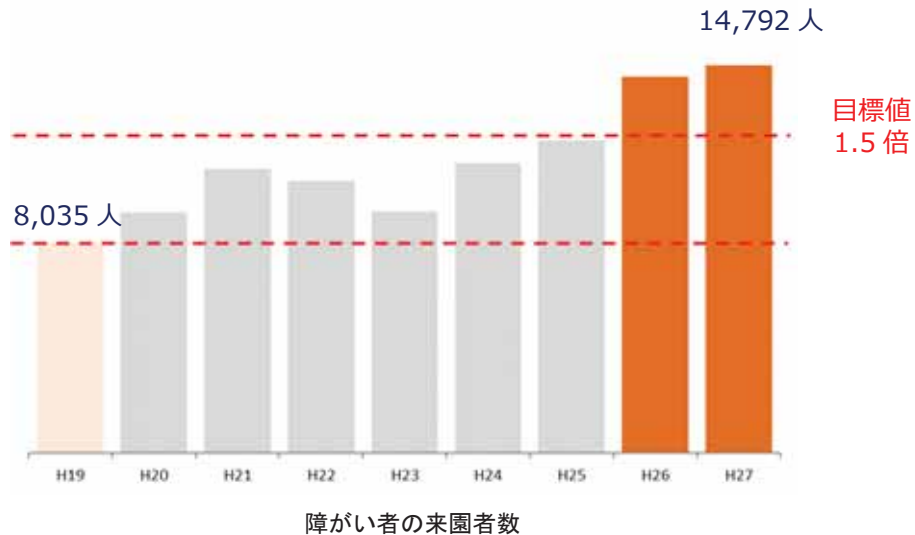
アクションプログラムの成果と今後の課題

取組の方向性	取組項目	狙い	成果	課題	対応の方向性
情報提供の改善・充実	8.サインシステムの再構築による情報提供の改善	公園内に設置する掲示板や標識、表示による情報提供の改善。	<ul style="list-style-type: none"> ・「サインマニュアル」を策定し、サインシステムを確立した。 ・サインの配置計画の検討を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観覧車の撤去に伴うランドマークが喪失し、現在位置の把握が困難になった。 ・外国人利用者の増加など利用者の変化への対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在位置を分かりやすくする見通しの確保、サインの工夫。 ・園外の案内（目的地に応じた駐車場への案内）の強化。
	9.パンフレット等による情報提供の改善	パンフレットやリーフレット、チラシによる情報提供の改善。	<ul style="list-style-type: none"> ・公園ガイドにできるだけ多くの必要な情報を掲載している。 ・インバウンド対応として、4カ国語で作成している。 	-	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き利用者に分かりやすいパンフレットの作成、充実。
	10.WEBサイトによる情報提供の改善	当公園の Web サイトによる情報提供の改善。	<ul style="list-style-type: none"> ・困難性情報についても Web で公開した。 ・「公園ホームページ・コンテンツ構成の手引き」を策定した。 	-	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き利用者に分かりやすい情報提供を行っていく。
利用性の向上	11.参加型プログラム等・セルフガイド型プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ●参加型プログラム 既存の主な参加型プログラムやイベントについて、参加可能条件等を整理して情報公開するとともにハンディキャップを持った方も気軽に参加できる参加型プログラムの作成。 ●セルフガイド型プログラム 五感を使いながら、公園を一人でも楽しめるセルフガイド型プログラムの充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルキャンプ等、ハンディキャップを持った方でも参加可能なプログラムの実施 	-	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きハンディキャップを持った方でも参加できるプログラム、イベント等を提供
	12.公園スタッフのサポート技術の向上	来園者に対する公園スタッフひとりひとりのハンディキャップを持った方への基本的な接し方やサポート技術の向上。	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ研修の継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・最新の知見や社会情勢の変化等に基づく継続的なスキルアップが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サポート技術向上のために継続的に勉強会、研修等を実施。

第4章 取組のスパイラルアップ

2008年度～2012年度（平成20年度～平成24年度）までのUD五箇年アクションプログラム及びその後の2013年度～2015年度（平成25年度～27年度）のスパイラルアップの取組により、本公園におけるUDはハード・ソフト面で充実してきました。

その結果、2007年度（平成19年度）に掲げた目標である「障がい者の来園者数1.5倍」については2014年度（平成26年度）に目標を達成するなど、取組が着実に実を結んできました。



特にハード面についてはトイレの改修や授乳室の設置などUDの観点からの整備が定着した結果、UDが特別なことではなく、日常的に取り組むべきことという段階へ移行してきました。

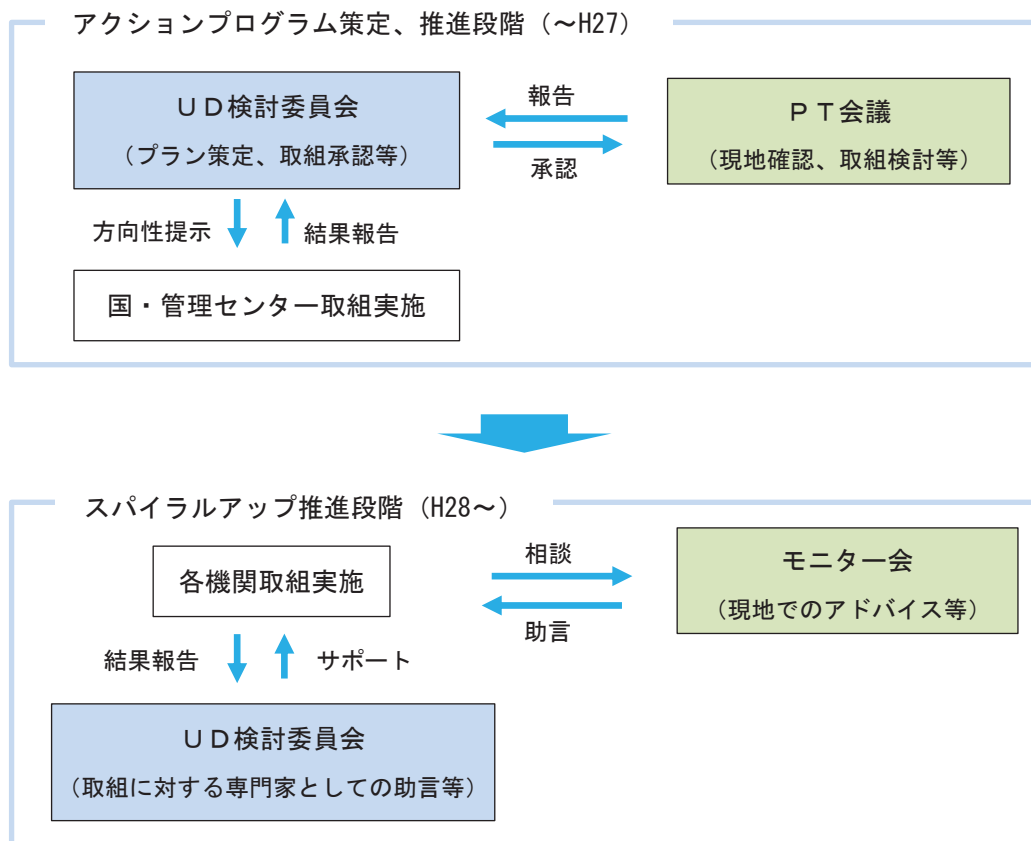
そのような認識のもと、2016年度（平成28年度）に「スパイラルアップの仕組みづくりPT会議」を設置し、今後のUDの取組の進め方、方向性等を検討しました。その結果、社会的ニーズやこれまでの取組の進捗等を考慮し、今後は、アクションプログラムの項目すべてについて引き続き実施していくのではなく、特に重点的に取り組むべき事項を設定し、着手できるものからUDの取組を進めていくこととしました。

具体的には、2017年度～2019年度（平成29年度～令和元年度）の3年間で取り組むべき重点項目として、以下の取組を進めることとしました。

- 1 サインシステムの再構築による情報提供の改善
- 2 公園内の各機関^(※)のUDの取組の推進

(※) ホテル ザ・ルイガンズ、海の中道青少年海の家、マリンワールド海の中道、海の中道マリーナ&テニス、管理センター、西日本パブリック

それに伴い、推進体制もアクションプログラムの項目を実行するためのPT会議から、個別課題ごとに現場の声を聴きながら検討、実行するモニター会へ移行し、UDの取組を実施する主体も従来の国・管理センターからホテル ザ・ルイガンズやマリンワールド海の中道などの施設管理者も含めた公園全体での取組へと拡大しました。



推進体制の移行

1 サインシステムの再構築による情報提供の改善（2）

園内サインの見直しについてはアクションプログラムから継続的に取り組んできましたが、外国人の来園者が多くなってきて、文字情報に頼らない案内などの観点もより重視する必要があること、平坦な公園の中でランドマークとして重要であった観覧車が2015年度（平成27年度）に営業終了し、目印が無くなって利用者が現在地の把握が難しくなったことなどを踏まえ、情報発信をより重点的に改善していくこととしました。

また、これまでは公園に入った方の園内施設の案内を主としていましたが、取組の範囲をより拡大し、来園者が公園に到着した際、目的地に応じた駐車場へスムーズに車を駐車できるよう、園外の案内にも取り組みました。

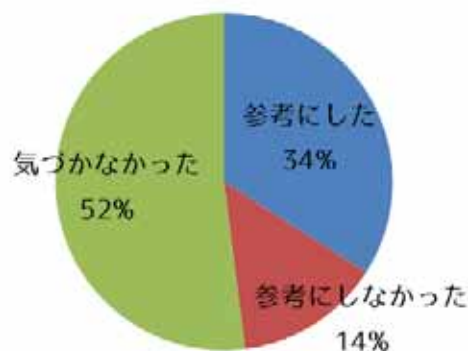
(1) 園外案内

本公園は非常に広大なため、公園の中に駐車場がいくつかあります。来園する方は自家用車を利用する方が多いのですが、特に初めて来園される方を中心に、目的地と最寄りの駐車場との関係を把握していない方も多いことから、園外の道路において目的地の最寄りの駐車場までの案内を分かりやすく案内するための取組を行いました。

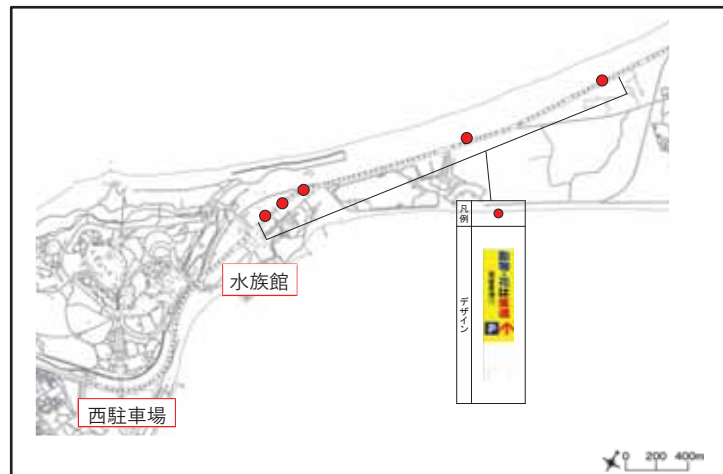
1)取組の実行

2017年（平成29年）

- 秋季に、道路に駐車場案内サイン（仮設）を設置し、利用者の多い「花のイベント（はなまつり）」及び「動物の森」を目的とする利用者を最寄り駐車場（西駐車場）へ誘導する試行を実施した。
- 案内サインを参考としたかについてアンケート調査を実施したところ、「参考にした」が3割程度と少なく、「気づかなかった」と答えた方が5割と効果は乏しかった。



- その要因としては
 - ・ 1つのサインに2つの情報を入れていること
 - ・ 「動物」・「花」の単語のみで趣旨が伝わりにくかったこと
 - ・ 案内サインの設置基数が少なかったことなどが考えられた。



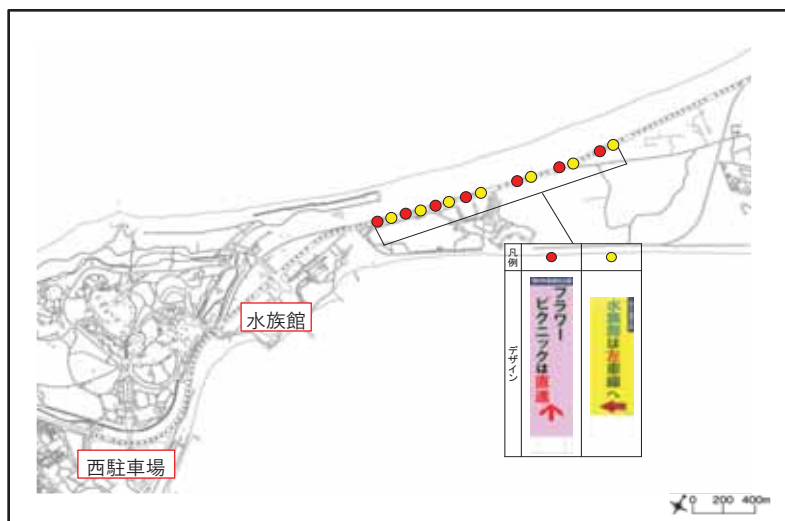
H29年度試行時の案内サインと設置箇所

2018年（平成30年）

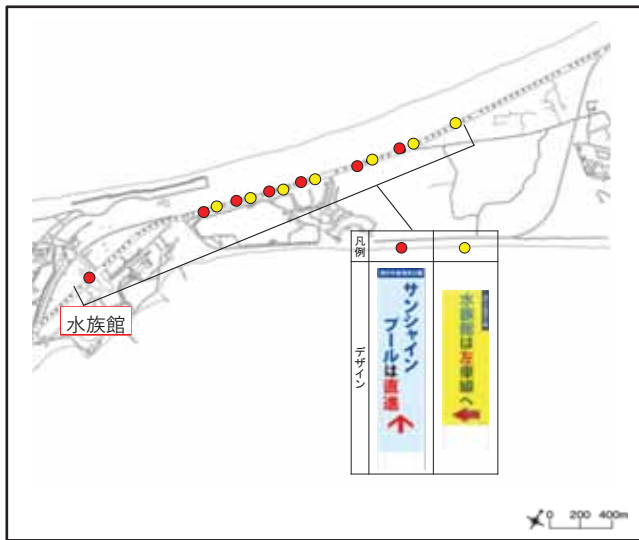
- 2017年度（平成29年度）の試行結果を踏まえた改善を行った上で、春季、夏季、秋季に道路に駐車場案内サイン（仮設）を設置しその効果を検証した。

（主な改善内容）

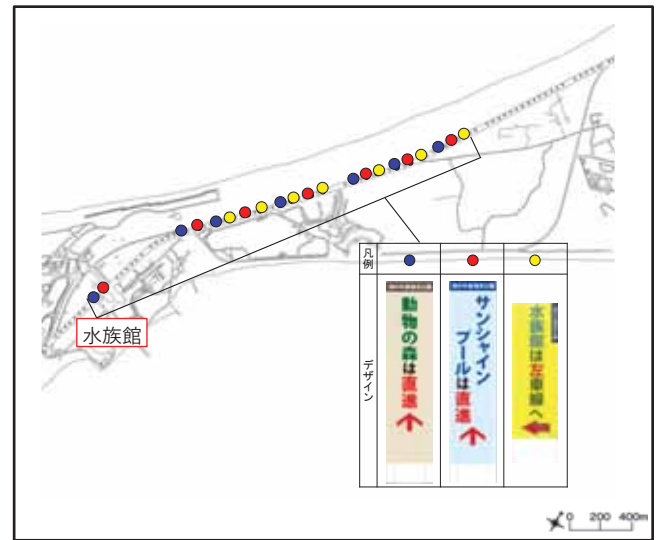
- ・ サイン1基に掲載する情報は一つに整理
- ・ 施設名、イベント名の名称は省略せずに掲載（「花」→「はなまつり」、「動物」→「動物の森」、サンシャインプール 等）
- ・ 設置基数の増加（5基→14～21基）
- ・ 利用者数が多い施設である「水族館」への駐車場の案内も追加することで、より目的地に応じた駐車場への分散を試みた



H30年度春季(1基1情報×2種) 各7基(全14基)設置

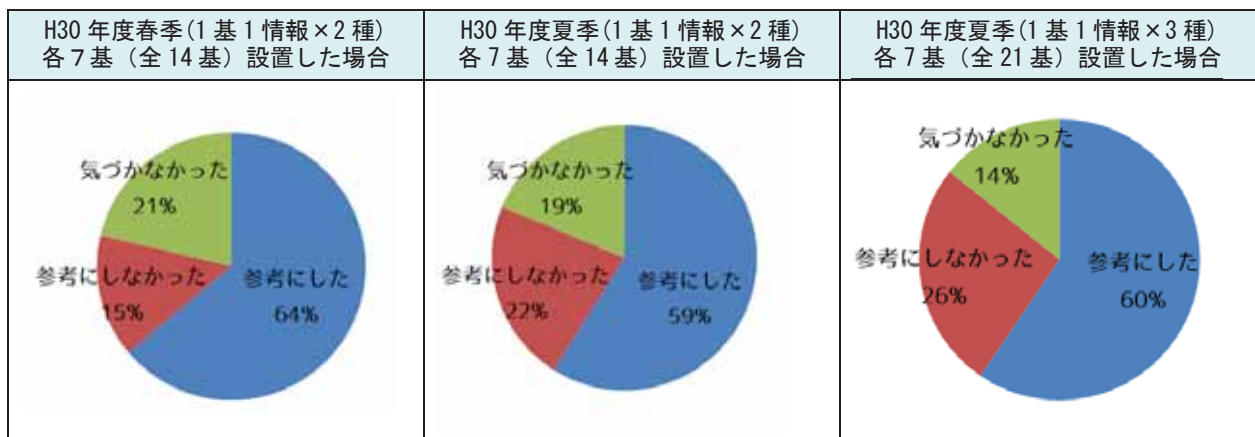


H30 年度夏季(1 基 1 情報×2 種)
各 7 基 (全 14 基) 設置



H30 年度夏季(1 基 1 情報×3 種)
各 7 基 (全 21 基) 設置

- 効果を検証するアンケートの結果、案内サインを参考にした者は概ね 6 割程度で多くの方がサインに気づき、参考にしたことが明らかになったことから、上記の改善により目的地に応じた駐車場の案内が概ね可能であることが明らかになった。
 - ・事例 7 仮設看板による駐車場案内 (事例集 pⅢ-17)



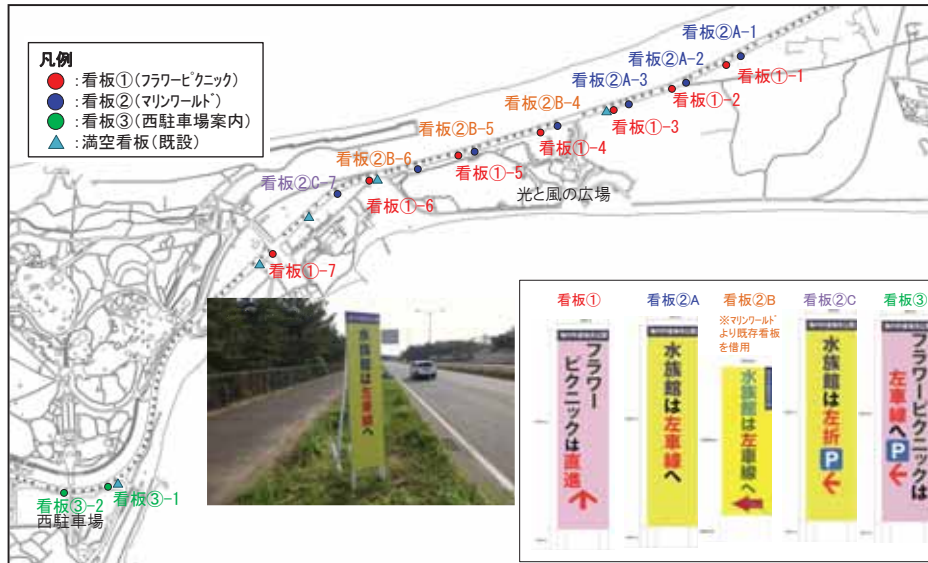
2019 年 (令和元年)

- 過去 2 年間の試行では、視認性を考慮して仮設看板を中央分離帯の照明灯へ設置していたが、試行結果を踏まえて今後も継続的に案内サインを設置することを前提とし、歩道に設置した場合の効果を検証した。

※照明灯への設置は福岡市の「屋外広告物条例」の禁止物件にあたる (試行は公共目的として許可されていた) ため、実験以外の目的での設置は原則不可。なお、歩道設置時にも道路占用・使用許可申請等の手続きや、道路埋設物協議 (NTT, 水道等)、地下埋設物への影響を考慮する必要がある。

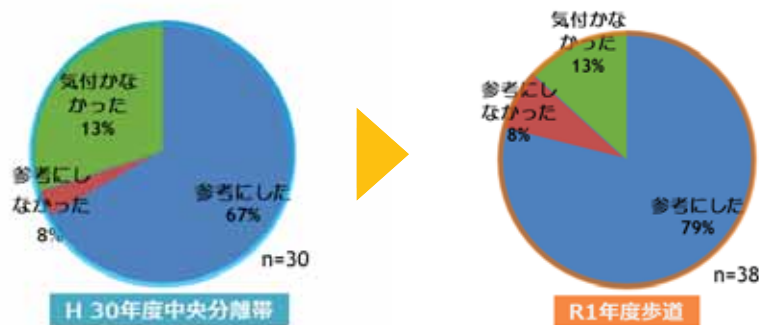


歩道側にサインを設置



R1 年度試行状況

- ▶ アンケートの結果、H30 年度の結果よりも「参考にした」の割合が増加した。このため、歩道側にサインを設置することは効果が高いことが明らかになった。



駐車場案内サインを参考にした初来園者の割合

2) 取組の結果

2017 年度（平成 29 年度）から 2019 年度（令和元年度）の試行により、効果的な駐車場案内サインのデザインや設置場所が明らかになったことから、現在も仮設サインをイベント時や多客期に設置する取組を継続的に実施しています。（試行は終了し、本格的な運用へ移行）

(2) 園内案内

「動物の森」は、本公園において大人気の施設です。しかし、公園の一番奥に位置するため、「道順がわかりにくい」「行くのに迷ってしまった」という利用者の声が多く聞かれました。

また、「動物の森」へ行く道中には、主要施設も多いことから、「動物の森」を案内することで、他の施設の案内も可能になると考え、各ゲートから「動物の森」へ路面シールを設置する取組を行いました。



利用実態調査等より、1年を通して利用者が多いが、公園の一番奥に位置するため道順がわかりにくいとの声があった「動物の森」を目的地に設定して園内案内を検討した

1)取組の実行

各ゲートから「動物の森」へ迷わずにたどり着くことを目的として、路面シールを設置しました。

路面シールのデザインは、外国人や子どもなど、文字が読めなくても理解できること、「動物の森」がイメージできること、行き道が楽しくなることを満たす、わかりやすいマークを検討した結果、動物の足跡のシールにしました。

また、色弱者でも認識しやすいように白地に黒のシンプルな配色とデザインにしたり、シールのサイズや設置する間隔は景観を考慮したり等、UD 検討委員会と合同で現地踏査を行ったうえで、色々な角度から検討を重ねました。

各年度に行った取組の概要は以下の通りです。

2018年(平成30年)

- 西口・ワン口～動物の森まで足跡シールを設置し、動物の森へ誘導する試行
 - ・事例8 シンプルで分かりやすいマーク(事例集 pⅢ-18)
 - ・事例9 他の案内ツールとの相乗効果検証(事例集 pⅢ-18)

2019年（令和元年）

- 駅口～動物の森まで足跡シールを設置し、動物の森への誘導を試行
- 足跡シールの水平展開として、駅口～マリンワールドまでイルカシールを設置し、マリンワールドへの誘導を試行
- 公園駅口において、マリンワールド利用者が誤って公園へ入場してしまうことを防止するため、駅口分岐路面シールを設置し、マリンワールドへの誘導を試行



足跡シール（左）、イルカシール（中）、
駅口分岐シール（右）

2)取組の結果

2019年度（令和元年度）に、「動物の森」から一番遠い駅口ゲートからの足跡シール試行を終了し、各ゲートからの利用者への案内効果が認められました。また、スタッフからも「路面シールを利用して案内している」「路面シールがあると説明しやすい」等の声を頂き、ランドマークとしての機能も兼ね備えていると考えられ、2020年度（令和2年度）から運用を開始しました。

しかし、広大な公園において、路面シールの維持管理の労力も大きく、今後の運用方法について試行錯誤しながら取組を継続していく必要があります。

また、駅口に設置した分岐シールについては、駅から出てすぐという条件もあり「目線が下にかかない」「人込みで下が見えない」「なんとなく前の人についていってしまう」等の意見が多く、公園入場者とマリンワールド利用者を分離する有効な手段を検討し、駅口のサインの統一に引き続き取り組めます。

2 公園内の各機関の UD の取組の推進

本公園は、国による園地や遊具等の整備のほか、国からの委託を受けて園地全体を管理運営する管理センター、ホテル（ザ・ルイガンズ）や水族館（マリンワールド海の中道）を運営する民間事業者、海の中道青少年海の家を運営する指定管理者など多様な主体が連携・協力して官民連携により多様なレクリエーションを提供しています。

UD の取組は国及び管理センターが主体となって主に園地において行ってきましたが、これまでの UD の取組等を情報共有することで、ホテルや水族館などの施設も含めた 6 機関で、公園全体として連携しながら UD の取組を推進していくこととしました。



6 機関の位置図

(1) 意見交換会

公園全体として UD の取組を連携して推進していくために、まず情報（課題）を共有する必要があると考えました。また、2017 年度（平成 29 年度）に実施した各機関へのヒアリングにおいて、「全機関が意見を出し合う場」の要望もあり、2018 年度（平成 30 年度）から情報を共有する場として「意見交換会」を開催しました。



2018 年度(H30 年度)意見交換会の様子

意見交換会であげられた各機関共通の課題を以下に示します。

	意見交換会で各機関からあげられた共通の課題
2018 年度 (平成 30 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人を対象とした非言語の案内のあり方 ・緊急時における外国人対応(案内)のあり方 ・各機関全体で公共交通機関での利用の呼びかけの検討 ・6 機関の情報の一元化発信のあり方 (HP に 6 機関の情報をまとめて掲載など) ・各機関の技術・施設を活用したさらなる魅力発掘(各機関が協働によるイベント開催、HP 等を活用した魅力的な情報発信など)
2019 年度 (令和元年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・こちらから発信している情報が外国人にうまく伝わっているのか ・非常時にどの程度の情報提供が必要なのか ・使用方法や禁止事項等をどのように(どこまで)表示(情報提供)するか ・異文化の情報を知ることに対応できることがあるのではないか

青文字：勉強会のテーマに選択した項目

(2) 勉強会

「意見交換会」において抽出された共通の課題(テーマ)について、さらに掘り下げる場として「勉強会」を開催しました。

「勉強会」の開催を通じて、共通の課題を共有し対応策や改善策を考えるだけでなく、日常業務において UD を意識すること、本公園のすべての関係者が UD の共通認識を持つことが重要と考えています。

2019 年度(令和元年度)の第 2 回勉強会では、座学の他にワークショップを取り入れ、「UD の観点から自ら気づく」ことが取組において重要であることを認識しました。

開催概要を以下に示します。

	研修内容	形式
2018 年度 (平成 30 年度)	福岡市の防災・減災 ～覚えておこう災害への対応～	外部講師による講座
2019 年度 (令和元年度)	外国人利用者について学ぶ	UD 検討委員による講座
	「やさしい日本語」講座	外部講師による講座 ワークショップ



UD 委員による講座
(中国文化について)



「やさしい日本語」講座後のワークショップの様子



第5章 今後に向けて

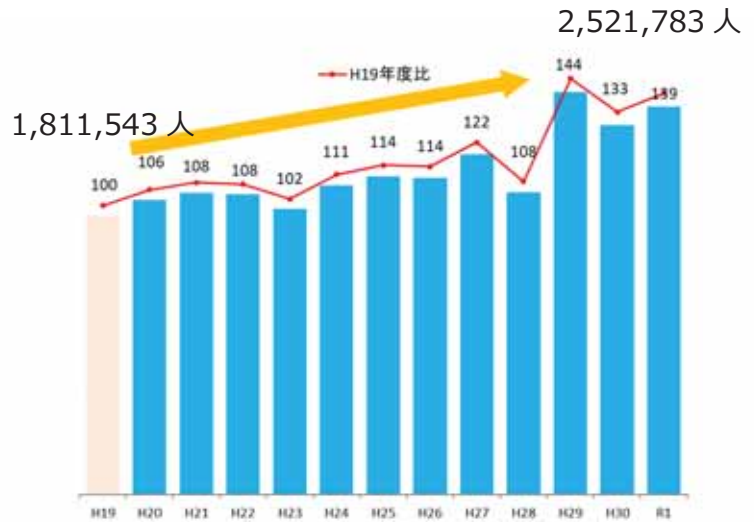
1 海の中道海浜公園の現状

これまでのUDの様々な取組もあって、公園全体の来園者数、障がい者の来園者数も取組前より増加し、外国人の入園者も増えてきています。

■全体入園者数

2006年度 約180万人
(平成18年度)

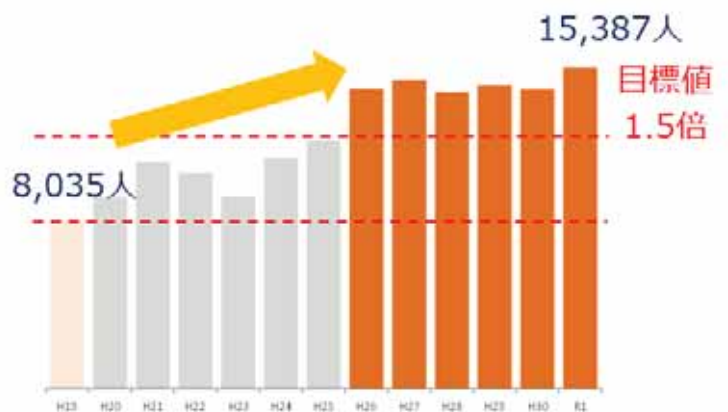
2019年度 約250万人
(令和元年度)



■障がい者数

2007年度 8,035人
(平成19年度)

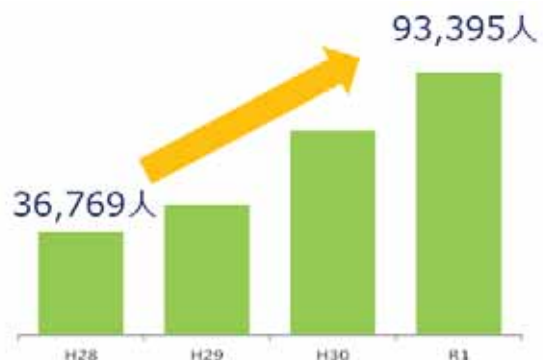
2019年度 15,387人
(令和元年度)



■外国人入園者数

2007年度 36,769人
(平成19年度)

2019年度 93,395人
(令和元年度)



2 これからのユニバーサルデザイン

UD の取組はこれまでも、これからも試行錯誤の連続であって、社会情勢やニーズの変化、技術の進展等により取り組むべき事項も変化していきます。

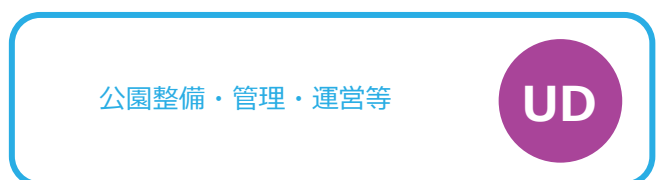
取組を開始した頃はハード・ソフト面の UD の取組は先進的なものでしたが、10 年以上が経過して今では UD が広く社会に浸透しています。今後は、UD は特別なものではなく、整備・管理の中に当たり前のように内包しているような公園であることが必要だと考えています。

これまでの UD



これまでの UD は、公園の整備・管理・運営等を検討し、そこに UD の観点からの改善を付加してきた。

これからの UD



これからの UD は、UD の観点を踏まえて、公園の整備・管理・運営等を検討し、「多様な利用者が、本公園の魅力を感じ、安心して利用できる公園」を目指す。

本公園の 10 年の UD 取組をまとめた本紙は、これまでの集大成として作成したものであり、これからも継続していく UD の橋渡しを担うものになると思います。

今後も、多様な利用者が、本公園の魅力を感じ、安心して利用できる公園を目指して、時代の変化や新たなニーズ・知見等に応じて継続的かつ柔軟に取り組んでいきます。

10年間の取組を振り返って

最後にまとめとして、UD 検討委員に 10 年間の取組を振り返っていただきました。(敬称略 50 音順)



国営公園として、これだけ積極的に UD に取り組んでいることはとても評価できることだと思っており、障がい者関係団体協議会として UD 取り組みの当初から携わってきましたが、多目的トイレの整備等も進み、非常に使いやすいものとなっていると思います。また、車いすや電動カートの常備等についても高く評価されることだと思います。多目的トイレは、様々な目的で使うことが想定されているため、利用者が多くなってしまうことから、目的別トイレという発想もいいのではないかと思います、トイレに限らず、すべてにおいて均一な UD ではなく、個を尊重した UD への展開が求められてきているものと感じています。公園がより使いやすく変わって、行く楽しみができれば嬉しい限りであり、今後もみんなが使いやすい公園を目指して頂きたいと思えます。

清水 邦之

海の中道公園の UD の取組では、数十か国の外国人居住者・留学生にモニタリングをお願いしました。彼らが最も感心したのは、UD の取組それ自体でした。日本の行政の誠実さに強い印象を受け、自国の問題に気づいたようです。それは私にとって印象深いことでした。

また障がい者に対するサポートは大切な課題として、スロープを付けたり、歩道の段差をなくす等、全国的に整備されてきました。しかし街中の小さな公園を見ると、障がい者にとってはトイレが使い難く、そばの道路には車が往来して騒々しくもあり、「くつろげる場」ではないようです。海の中道公園は広く、花園もあり、さらに UD の取組で一日中安心して「くつろげる場」に変わったと思います。

外国人の困惑や障がい者の実情には分からない部分が多々あります。「外国人や障がい者に対する偏見の少ない、プロフェッショナルな知識と技能を有する現場スタッフの育成」は UD の実現にとって不可欠です。今、研修会が始められましたが、何を学ばよいか、何を学びたいのか、現場スタッフの要望を満たすような研修にしていく必要があります。

海の中道公園は博多湾を抱くようにして志賀島へと延びる海道の途中にあります。その玄界灘側にはプラスチックごみなど漂着物が多く、これを清掃する市民ボランティアが組織されています。このような環境保全活動は UD のいう「安心・安全」の基盤となるものです。海洋汚染対策は世界のテーマであり、海の中道公園でも継続して取り組んでほしいと思います。UD の取組を通じて、海の中道公園の重要性を知ることが出来ました。皆様に感謝申し上げます。

白土 悟





「すべての人にやさしい日本一の国営公園を目指す」という目標に感銘し、委員として精いっぱい持てる専門知識とこれまでの経験を十分に発揮できたプロジェクトであると考えています。

取組み当初は、UD の考え方の定着化が始まった頃であって、公園自体もまだまだ改善の余地ある施設が多く、多くの人が利用する国営公園の更に利用しやすい環境づくりについて、取り組み改善を提案し、その都度、試行→モニタリング→検証の繰り返しに立ち会い、常に利用者視線に立った上で、公園スタッフ等関係者と一丸になって取り組んだ成果と評価しています。

印象的な事例ですが、公園中央部に位置するインフォメーションセンター内に「授乳室」「介護室」を新たに設置出来たことは大きな成果であったと評価しています。当時、インフォメーションセンターは文字通り、公園として重要な管理機能及び付随の放送機器を設置する管理施設でしたが、一番良好な場所であることから課題対応も含め、授乳室設置の必要性を提案したところ、利用者優先から改善に取り組むこととなり、まさに委員の思いと関係者が一丸となって目的達成に向かう姿に感動を覚えたものです。管理施設の代替機能の確保等簡単かつ容易な課題ではありませんでしたが、確実に改善に取り組み、福岡市の「赤ちゃんの駅」に登録できたことも大きな成果でした。

なによりも他の多くの審議会、委員会に参加していますが、委員会の意見を基に具体的に改善・改良・改革が確実にみるみる実践されていくこのような委員会は初めてです。委員として非常にやり甲斐と達成観を感じていました。

今後の UD を考えると多様化、細分化が更に進み、そうした社会の変化の情勢に適宜対応していくことが重要であり、より一層前向きに取り組むことが重要であり、引き続き日本一の国営公園の名のもと国営公園の果たすべき役割に向け、終わりがなき取り組みの継続を願う次第です。

濱砂 圭子

景観の観点からデザインは重要ですが、専門家、利用者等の様々な意見を踏まえ、検証しながら進めたことは良かったと思います。

特に、ランドマークである観覧車がなくなり目的地への道順が分かりにくくなったことを受け、中低木を伐採することにより、見通しを良くし案内した取組は成功したと感じています。UD 取組は終わりがなく、今までの取組を継続しつつ、障がい者、健常者に関わらず様々な利用者がコミュニケーションをとりながら楽し遊べるインクルーシブな公園づくりを目指し、付加価値をつけていくことも必要ではと考えます。海中での取組が全国の公園管理者のお役に立つことを願っています。あらためて参加できたことに感謝申し上げます。



細谷 恒夫



まずは、歴代の公園事務所長をはじめとする所員の方々、杉本委員長ほか UD 委員会の先生方、事務局スタッフの方々に敬意を表したいと思います。短期間の特別な取組ではなく、現場での公園管理運営とあいまった 10 年間にわたる継続した UD の実践は、そのものが貴重であり、今後の大きな財産であると思います。特に、障がいのある方の入場者数が取組当初の 2 倍近くに達していることは何よりの成果であり、公園 UD といえば、遊具のカタチや仕様といった印象がまだまだ強いなか、活動や参加を基本としたうみなか 10 年の取組は今後の模範となるべきものと言えると思います。私個人としては、情報発信についてのお手伝いをさせていただきましたが、兵庫県から足繁く公園に通って、スタッフの方々と現場で議論したことが懐かしく思い出されます。本冊子が十分に活用されますよう祈念するとともに、今後の新たな試行や取組にも大いに期待をしています。貴重な機会を与えていただいたことに、あらためて感謝申し上げます。

美濃 伸之

検討委員会の設立当初は、UD とは何か、目指すべき方向性の議論から手探りで始まりましたが、「日本一の UD 公園を目指す」という共通のビジョンを掲げたことで、国、関係機関、委員が一体となり取り組めた 10 年でした。先駆的な試みは苦難が付きものですが、委員の意見に対し、関係機関をはじめ、国、現地スタッフの皆さんが知恵と労力で地道に対応された結果が今日の公園をつくっていると思います。公園づくりは、楽しく、健やかで、おだやかな時を過ごす空間づくりという点において、「まちづくり」に通じることに気付かされました。海中での取り組みが全国の公園や来園者の街へと広がることを切に願うとともに、今後も日本一を目指し、多くの人に知ってもらうための地道な努力を続けて頂きたいと思います。



山形 紀子



海の中道海浜公園では、「すべての人が安心して楽しく利用できる」を目標としたユニバーサルデザイン（UD）に取り組んでいます。当公園のUD取組の特徴は、交通施設や建物が利便性を重視しているのに対し、“安心して楽しく利用する”という目標を加えている点にあると言えます。

まず検討委員会で取り組みましたことは、“安心して楽しく利用できる”という視点で、どのようなところに、どのような課題があるのかを明らかにするために、現状をチェックすることでした。その結果、公園が広過ぎて利用者がなかなか目的地に行けない、自分の位置が確認できないといった情報提供の不足や、暑さ対策の必要性、休憩場所が少ない、トイレや授乳室の不備などの課題が浮かび上がりました。

これらの課題に対応すべく検討委員会では、課題をハード面とソフト面に分け5箇年で取り組むアクションプログラムをまとめました。

取組にあたり最も重視した点は、公園のそれぞれの場所に存在する自然特性や個性ある風景、そこでの利用者のアクティビティの特徴に留意して、デザイン・フォー・オールの考え方が満たされるような取組を展開することでした。例えば、暑さ対策のための園路の遮熱舗装、樹林とベンチの適正配置の提案、サインの視認のための樹木の適切な整枝による風景の再構築の展開などが挙げられ、いずれも海の中道海浜公園固有の風景づくりとして取り組んできました。これまでの10年間の取組で最も大きな成果は、様々な試行、取組を行うことで今後のUD取組の礎がつくられた点にあると考えます。しかしながら、緑陰や休憩施設、トイレの数など様々な利用者を想定した快適な利用のためにはまだまだ不足しており、今後、UDの本質の更なる追求と共に、本公園の成熟に向け更にUDの選択肢を増やし検討していくことが重要であると考えます。

すべての利用者に安心して楽しく利用して頂けるようUDを適切に展開することは、“その公園ならではの風景の保全やすべての利用者に満足感を与えることに繋がり、公園の再生や活性化にとって有用な手段である”と確信しており、今後、海の中道海浜公園のユニバーサル化が更にスパイラルアップされることを切に願っています。

最後になりましたが、この度の海の中道海浜公園の各施設についてUDの視点から有意義な成果を導くことができましたのは、委員各位の専門性に基づく適切なご指導によるものであると感謝しています。また、多様な調査で多大なご協力を賜りました多くの関係各位に御礼申し上げます。

杉本 正美（委員長）

◆委員名簿


(敬称略)

氏名	所属	任期
阿野 史子	NPO 法人 道守長崎 理事長	H20~H24
大山 勇雄	NPO 法人 福岡市障がい者関係団体協議会 事務局長	H19~H22
中原 正人	NPO 法人 福岡市障がい者関係団体協議会	H22~H25
上石 洋伺	NPO 法人 福岡市障がい者関係団体協議会 事務局長	H26~H30
市原 礼子	NPO 法人 福岡市障がい者関係団体協議会	R1
清水 邦之	NPO 法人 福岡市障がい者関係団体協議会 理事長	R2
白土 悟	九州大学 総合研究博物館 専門研究員	H19~
杉本 正美	九州芸術工科大学・神戸芸術工科大学 名誉教授	H19~
濱砂 圭子	NPO 法人 男女・子育て環境改善研究所 顧問	H19~
細谷 恒夫	一般社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会 顧問	H19~
美濃 伸之	兵庫県立大学大学院 緑環境景観マネジメント研究科 教授	H19~
山形 紀子	株式会社西日本新聞 TNC 文化サークル 久留米事務局長	H19~

II. 年表

ユニバーサルデザイン10年の取組の歩み

	平成18年度 (2006年)	平成19年度 (2007年)	平成20年度 (2008年)	平成21年度 (2009年)	平成22年度 (2010年)	平成23年度 (2011年)	平成24年度 (2012年)	
海の中道海浜公園におけるUDの具体的な取組み		UD検討委員会 設置	アクションプログラムの策定・実施					
		基本方針・基本 理念検討、策定	5箇年アクション プログラム策定		5箇年アクション プログラム改訂	「サインマニュアル」 策定	・アクションプログラムの 評価 ・次の3年間の取組み 項目選定 ・スパイラルアップの 仕組み改訂	
			➢通り名で道案内試行			➢サインに頼らないサイン 体系の確立、サイン 配置等検討		
			➢参加型プログラムに ついて、参加可能条件 を検証					
			➢トイレの設置状況確認		→ トイレ改善			
					➢授乳室の設置状況確認	→ 授乳室改善	「提供する情報の表現内 容・方法に関するガイドラ イン」の策定	
			➢ホームページへのUD情報公開(試行) ホームページの再構築検討		➢UD情報公開・HPの再構築 → (参加可能条件等公開)		「公園ホームページ・コン テンツ構成の手引き」の 策定	
					➢ネットワークルートの改善・設定試行	→ 運用開始	「ネットワークの設定・改 善ガイドライン」の策定	
					➢下肢伐採による緑陰 の確保(暑さ対策)	➢樹木伐採による 見通しの確保		
						➢ベンチの改善及び 配置検討		
UD検討委員会の活動		委員会 3回	委員会 3回	委員会 3回	委員会 3回	委員会 3回	委員会 2回	
			通り名で道案内 PT会議 4回	通り名で道案内 PT会議 3回	情報提供の再構築 PT会議 3回	サインシステム構築 PT会議 3回		
			UD情報Web PT会議 2回	UD情報Web PT会議 3回	スパイラルアップの 仕組みづくり PT会議 4回			
				情報システムの再構築 PT会議 3回				
海の中道海浜公園の主な出来事				●環境共生の森 供用開始		●「くじらくも”ふわんぼりん”」 利用開始		
					●「海の松原」「みらい橋」 供用開始			
UD関連法令等	<ul style="list-style-type: none"> 「移動等円滑化のために必要な特定公園施設の設置に関する基準を定める省令（平成18年国土交通省令第115号）」（都市公園移動等円滑化基準の制定） 「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」（通称：バリアフリー新法） 						●障がい者差別解消法	
			●「都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン」			●「都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン」（改正）		

平成25年度 (2013年)	平成26年度 (2014年)	平成27年度 (2015年)	平成28年度 (2016年)	平成29年度 (2017年)	平成30年度 (2018年)	令和元年度 (2019年)
アクションプログラムのフォローアップ			スパイラルアップ推進			
>UD取組の評価と改善 			<ul style="list-style-type: none"> ・H20～27の施策評価及び見直し ・次の3年間の取り組み項目選定 ・スパイラルアップの仕組み改訂 			
			>目的の最寄の駐車場への案内試行（園外案内） → 運用開始			
			>観覧車（ランドマーク）に代わる案内の試行（園内案内）			
			>6機関協働による新たなUD取り組みの展開			
委員会 2回	委員会 2回	委員会 1回	委員会 1回	委員会 1回	委員会 1回	委員会 1回
アクションプログラムの評価と改善			モニター会 1回 モニター会 1回 モニター会 1回			
			スパイラルアップの仕組みづくり PT会議 3回			
			●PFI事業※事業開始（マリンワールド）		●PFI事業※事業開始（ホテル、マリーナ&テニス）	
			●大観覧車 営業終了			
			●博多湾パノラマ広場 供用開始			
※PFI事業：民間の資金と経営能力・技術力（ノウハウ）を活用し公共事業を実施すること						
●2020年オリンピック・パラリンピック競技大会開催が東京に決定						
			●バリアフリー新法（一部改訂）			
			●東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会特別措置法			



 国営 海の中道海浜公園
Uminonakamichi Seaside Park

ユニバーサルデザイン 10年の取組 Ⅲ.事例集



これまで、アクションプログラム及びその後のスパイラルアップにより、様々なUDの取組を実施してきました。

10年間で実施してきた主な取組事例について、以下にその概要をご紹介します。

事 例	ページ
(1) ネットワークルートの設定・改善	
1 利用者が楽しみ方を選択できるコース設定	Ⅲ-3
2 おすすめルートマップの作成	Ⅲ-4
3 横断的モニタリング	Ⅲ-4
4 白黒マップの工夫	Ⅲ-5
5 バリアフリー版マップの作成	Ⅲ-5
(2) 暑さ対策の実施、ベンチ配置改善	
1 下枝伐採による緑陰の創出	Ⅲ-6
2 可動式ベンチの設置	Ⅲ-7
3 利用ニーズに応じた施設配置	Ⅲ-7
4 ユニバーサルデザイン対応ベンチへの改善	Ⅲ-7
(3) トイレの利便性向上	
1 「トイレカルテ」の作成	Ⅲ-8
2 モニターの声を踏まえた設備改善	Ⅲ-9
3 トイレマップの作成とWebへの反映	Ⅲ-9
(4) 授乳室の利便性向上	
1 アンケート結果を踏まえた既存施設の改善	Ⅲ-11
2 授乳室のモニタリング調査	Ⅲ-12
3 利用者のニーズを踏まえた授乳室の新設	Ⅲ-13

事 例	ページ
(5) サインシステムの再構築による情報提供の改善	
1 ケヴィン・リンチの手法	Ⅲ-14
2 ランドマークとなる施設の強調	Ⅲ-15
3 ピクトグラムの一統	Ⅲ-15
4 外国人の意見も踏まえた4カ国語表記	Ⅲ-16
5 トイレの案内サインの改善	Ⅲ-16
6 音によるゲート認識	Ⅲ-17
7 仮設看板による駐車場案内	Ⅲ-17
8 シンプルで分かりやすいマーク	Ⅲ-18
9 他の案内ツールとの相乗効果検証	Ⅲ-18
(6) 通り名で道案内	
1 プロジェクトチームによる検討	Ⅲ-19
2 定着に向けた広報等	Ⅲ-20
3 スタッフへの研修	Ⅲ-20
4 他公園の「通り名で道案内」事例	Ⅲ-20
(7) 公園ガイドマップの充実	
1 見やすさの向上	Ⅲ-21
2 セルフガイドツール、情報提供ツールとしての公園ガイド	Ⅲ-22
3 外国語対応（留学生による表記チェック）	Ⅲ-22

(1) ネットワークルートの設定・改善



<写真>

UD検討委員会の特別講師とモニタリング調査を実施しました。

講師は全盲のため、バラの香りや感触を愛でています。

1 : 利用者が楽しみ方を選択できるコース設定



- ✓ 季節ごとに変化する公園の魅力を利用者に効率的に提供するため、介助が必要な方でも利用可能なおすすめ施設間を結ぶ、五感で楽しめるおすすめコースを設定しました。
- ✓ 平坦な道だけでなく坂道や舗装されていない道なども、チャレンジコースとして設定しました。
- ✓ 休憩施設や多目的トイレが適宜配置されるようコースを設定しました。

2 : おすすめルートマップの作成

- ✓ 五感で楽しんでもらうため、施設における五感情報が一目でわかるようピクトグラムで表示しました。
- ✓ 必要な情報としてトイレの位置（多目的トイレの位置）の情報を掲載しました。
- ✓ 目的地の選択肢のひとつとして、おおよその所要時間を表示しました。
- ✓ 現地をよく知る管理者が、おすすめしたいポイントとして魅力を伝えました。
- ✓ おすすめルートマップに掲載する情報として「ネットワークルートの設定・改善ガイドライン」に詳しく掲載しました。

おおよその
所要時間



3 : 横断的モニタリング

- ✓ 来園者によるアンケート調査により評価していましたが、障がいをお持ちの方や外国人等の回答が少ない結果となりました。
- ✓ そこで 乳幼児連れ、福祉関係者、UD検討委員を対象としたモニタリング調査を実施しました。
- ✓ このモニタリング調査では、おすすめルートマップを用いながら UDの他の取組み（授乳室の設備向上やスタッフのサポート技術向上等）も合わせて横断的な評価を得ることも目的としました。
- ✓ 横断的モニタリングはアクションプログラム終了後も継続し UD取組の向上につながっています。



おすすめルートのモニタリング調査の様子

4 : 白黒マップの工夫



本格運用時のおすすめルートマップ（平成23年度版）

- ✓ H22年運用に向けて経費削減のためマップを白黒に変更しました。
- ✓ 親しみやすいようマップはイラストに変更しました。
- ✓ 高齢者や視覚障がい者にも分かりやすいよう濃淡をつけて表現しました。
- ✓ 子ども達に塗り絵で楽しんでもらえるよう、紹介する花等は白抜きイラストを使用しました。



5 : バリアフリー版マップの作成



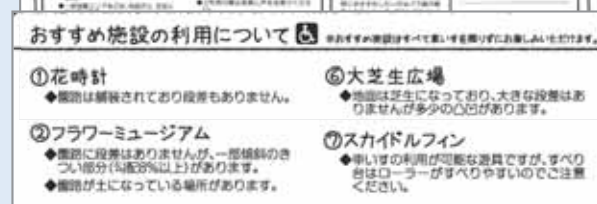
パークトレインルート

パークトレイン停留所



パークトレイン情報は、サポートが必要な方の利用率が高かったことから、バリアフリー版にはパークトレインルートと停留所の位置情報を掲載しました。

- ✓ H22年スパイラルアップPT会議での「マップの多様性が増えていくことがスパイラルアップになる」という意見を受けて、一般向けに加えてバリアフリー版を試行的に作成しました。
- ✓ バリアフリー版においては、文字の大きさを適宜大きくするとともに、利用可能性情報・利用困難性情報を多く掲載しました。



車いすで利用可能だが、園路が舗装されていなかったり、段差や傾斜等、利用困難性情報も掲載しました。

- ✓ その後、一般版はイベントチラシで代用することとし、バリアフリー版のみ継続しました。

(2) 暑さ対策の実施、ベンチ配置改善



<写真>

整備されたカナル広場で
くつろぐ利用者

1 : 下枝伐採による緑陰の創出



<対策前>

大芝生広場周辺は日陰等もなく、
休憩場所が不足していました。



<対策後>

高木の下枝伐採により緑陰を確保した結果、
休憩スペースとして活用して頂けました。

- ✓ 豊かな自然を求めて来園される利用者も多い中、樹木を伐採するというのは、賛否のわかれるところでした。
- ✓ しかし、実施後は木陰で涼む利用者が多く見られ、良い結果が得られました。
- ✓ また、見通しもよくなり、安全性（不審者の隠れ場がない等）や利便性（目的地が視認でき迷いにくい等）の向上にもつながりました。

2：可動式ベンチの設置



季節に応じた可動式ベンチの配置

- ✓ ベンチが不足しているという声が多く寄せられました。限られた予算の中で全ての場所にベンチを置くことは困難でした。
- ✓ 調査の結果、必要な場所にベンチが配置されていないことが分かりました。
- ✓ 必要な場所は、季節やイベントの開催等により異なります。
- ✓ そうした変動に対応できるように、固定式ベンチに加え、可動式のベンチを導入し、必要に応じてベンチを移動し、ベンチ不足の解消に努めました。

3：利用ニーズに応じた施設配置

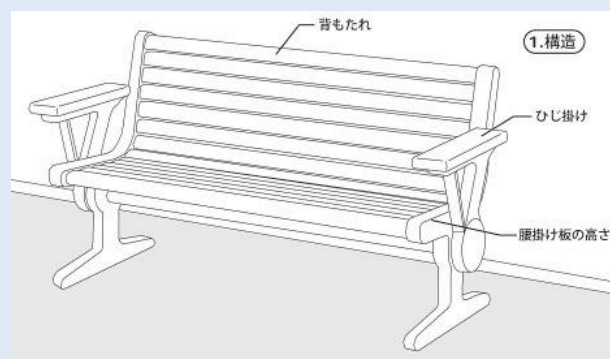
- ✓ ベンチだけでなく、食事ができるようテーブルの設置や背もたれ付・ひじ掛け付ベンチ等の導入等、休憩するだけでなく憩いの場としての空間を創出しました。
- ✓ 特に、長時間滞在するような場所を中心に、快適に休憩できる環境を整えました。



バラ園へのテーブル・ベンチの配置

4：ユニバーサルデザイン対応ベンチへの改善

- ✓ 当初、ユニバーサルデザイン関係法令に記載されている基準等を満たすベンチは少なかったです。
- ✓ ベンチへのアクセス路や、ベンチ周りのスペース等、車椅子やベビーカーでの利用を考慮する必要性がありました。
- ✓ また、全ての人が五感で楽しんでもらえるよう、ネットワークルートを紹介しておりその動線上は特にユニバーサルデザインに対応した整備が必要と考え、優先的に整備を進めています。



【ベンチに関するユニバーサルデザイン参考基準】

「福岡市 福祉のまちづくり条例」より

- ①腰掛け板の高さ・・・40cm程度とします。
- ②背もたれ・・・視覚障がい者用に設けます。
- ③ひじ掛け・・・手すり兼用のひじ掛けは、必要に応じて設けます。

(3) トイレの利便性向上



<写真>

オストメイト対応の多目的トイレ

1 : 「トイレカルテ」の作成

- ✓ 新たに制定されたバリアフリー新法等に基づき、改修計画を見直す必要が生じ、公園の全てのトイレの現状調査を実施しました。
- ✓ トイレは、園内に長時間滞在する場合に最低限必要な施設であり、十分なトイレの確保と利便性の向上を図る必要がありました。整備するにあたり、量的な面だけでなく質的な面も重視するために、まず調査結果をバリアフリー基準への適合状況、バリアフリー機器（手すり、ベビーチェア等）の適切な配置状況、トイレ周辺環境の状況により評価しました。
- ✓ こうした現況評価の結果を整理し、さらにトイレ1基ずつの詳細評価内容を示した「トイレカルテ」を作成しました。
- ✓ 「トイレカルテ」を作成することで、整備の必要性に優先度をつけることができ、優先度の高いトイレから効率的に整備を実施することができました。

◆ 便所全般の基準

項目	適合基準	適合の考え方	評価	備考
① 床面	床の表面は滑りにくい材料で仕上げられているか？	滑りにくいかどうか	○	小便器前は磨き仕上げ
② 男子用小便器	床置き式の小便器その他これに類する小便器を1以上設置しているか？	設置の有無	○	
③ 手すり	床置き式の小便器その他これに類する小便器のうち1以上の便器に手すりを設置しているか？	設置の有無	○	

◆ 福祉型便房を設置した便所の基準

① 有効幅員	出入口の有効幅員は、80cm以上あるか？	数値基準を満たす	○	
② 出入口 (戸)	便所の出入口に戸を設ける場合は、高齢者、障がい者等が円滑に開閉して通過できる構造になっているか？	引き戸・外開き戸	○	
③ 広さ	福祉型便房入口前に、利用に適した広さが確保されているか？	概ね150×150cm程度	○	
④ 表示 (出入口)	出入口又はその付近にその旨を表示した標識を掲示しているか？ 標識は、JISZ8210に合わせたものか？	標識の有無・内容	○	
⑤ 段差	出入口に段差はないか？段差がある場合、傾斜路が設けられているか？	段差・傾斜路の有無	○	

◆ 福祉型便房の基準

① 床面	床の表面は滑りにくい材料で仕上げられているか？	磨き仕上げは不可	○	
② 段差	出入口に段差はないか？段差がある場合、傾斜路が設けられているか？	段差・傾斜路の有無	○	
③ 表示 (出入口)	出入口又はその付近にその旨を表示した標識を掲示しているか？ 標識は、JISZ8210に合わせたものか？	標識の有無・内容	○	
④ 便座及び手すり	腰掛便座、手すりその他必要な設備が適切に配置されているか？	設置の有無・配置	○	
⑤ 水洗器具	高齢者、障がい者等の円滑な利用に適した構造を有する水洗器具が設けられているか？	洗面器の配置・蛇口の形状	○	
⑥ 便器洗浄器具スイッチ	便器洗浄器具スイッチは押しボタン式等操作が容易なものを分かりやすい位置に設置しているか？	設置の有無、位置	○	

「トイレカルテ」の例

2：モニターの声で踏まえた設備改善

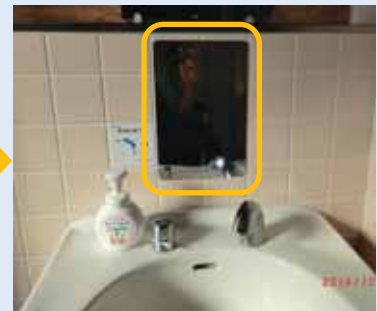
- ✓ 施設の利便性を確認するため、車いすの方等のモニターにより使い勝手を確認して頂きました。
- ✓ その結果をもとに、車いすの方でも顔が写るような位置への鏡面シートの貼り付けるなど順次、設備の改善等を実施しました。



現地での確認の様子



<対策前>



<対策後>

車いす利用者から「化粧鏡に顔が映らない」という指摘を受け、鏡を設置しました。

3：トイレマップの作成とWebへの反映

- ✓ すべての人にとって、公園に長時間快適に滞在するためにトイレ情報は必須と考えます。
- ✓ 特に、障がいをお持ちの方や赤ちゃん連れの方にとっては、来園するかどうかを決める選択肢の一つであると考えます。
- ✓ 公園のどこに、どんな機能を持ったトイレがあるのか、一目でわかるようトイレマップを作成し、広く周知できるようWeb上に公開しました。
- ✓ トイレマップの他、より詳しい機能がわかるようトイレ一覧もWeb上で公開し、来園の際には各自印刷・手持ちできるよう、PDFデータをダウンロードできる仕組みとしました。



トイレ番号	多目的トイレ				一般トイレ				多目的トイレあり			
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

H21年に公開したトイレマップ（左）とトイレ一覧（右）

- ✓ 公園ガイドにおいても、一般トイレ、多目的トイレ、ベビーシート、オストメイト等の位置をピクトグラムで掲載することにより、さらに多くの人に分かりやすく情報を提供しています。
- ✓ 現在はトイレ情報だけでなく、授乳室や救護施設等の情報と併せて、ユニバーサルマップとしてWeb上に公開しています。
- ✓ また、トイレの詳しい機能が必要な方のために、写真入りでトイレ情報を公開しています。



公園ガイドで使用しているピクトグラム例

海の中道海浜公園トイレ情報

◆大芝生広場・森の家エリア

地区	番号	名称	男子		女子		多目的	ベビーシート	多目的シート
			和式	洋式	和式	洋式			
1	森の家		-	1	1	1	-	○	-
2	スカイドームフィン迷くトイレ		-	1	1	2	-	-	-
3	スカイドームフィン多目的トイレ		-	-	-	-	1	-	-
4	大芝生広場トイレ (動物の森正門前)		-	1	1	2	-	-	-
5	大芝生広場レストハウス		1	1	2	2	1	1	○
6	大芝生広場トイレ (フラワーミュージアム横)		-	1	1	2	-	-	-



森の家多目的トイレの様子



大芝生レストハウス 多目的トイレの様子

◆西口周辺・フラワーミュージアム・バラ園エリア (西駐車場エリア含む)

地区	番号	名称	男子		女子		多目的	ベビーシート	多目的シート
			和式	洋式	和式	洋式			
1	西口 (ゲート内)		-	1	1	2	1	1	○
2	西口 (ゲート外)		-	1	1	2	-	-	○
3	西サイドリングセンター口		-	1	2	4	-	-	○
4	障がい者専用駐車場多目的トイレ		-	-	-	-	1	-	○
5	本館の広場レストハウス		1	-	3	-	-	-	○
6	カーナル ★		1	2	2	2	2	2	○
7	バラ園 ★		1	2	1	4	2	2	○
8	西駐車場		1	1	3	3	1	1	○
9	西口レストハウス		2	-	5	-	1	-	○

★子ども用洋式トイレ有



西口 (ゲート内) 多目的トイレの様子



障がい者専用駐車場多目的トイレ ※トイレ内には、100kgまでの多目的シート有り

R2年時点公開しているトイレ情報 (一部)



ユニバーサルマップ

(4) 授乳室の利便性向上

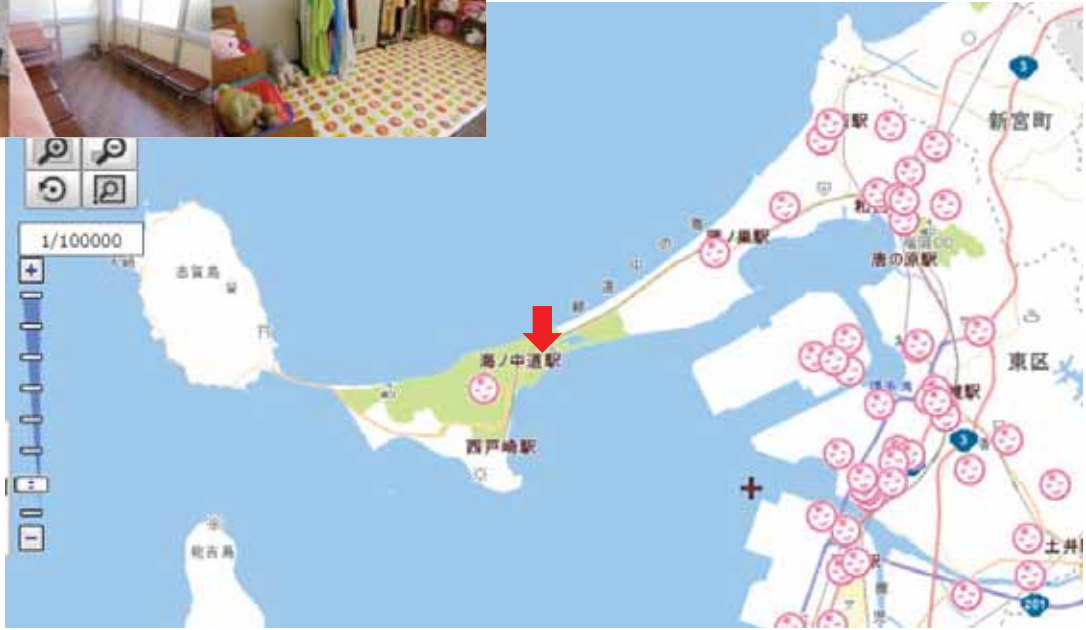


<写真左>

福岡市の「赤ちゃんの駅」に登録し、授乳室の周知に努めました。

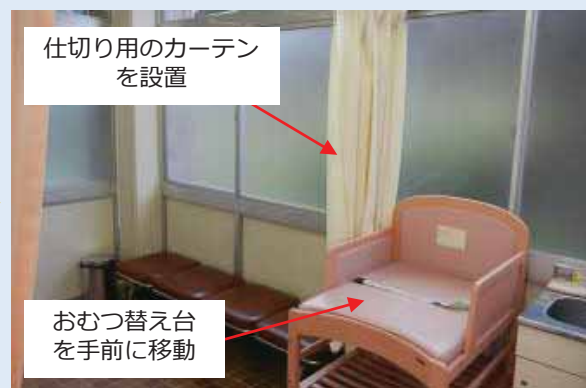
<写真下>

福岡市Webマップで「赤ちゃんの駅」が検索できます。



1 : アンケート結果を踏まえた既存施設の改善

- ✓ 既存の授乳室は、ユニバーサルデザイン関係法令等に照らして必要とされる設備等は、概ね満たしていました。
- ✓ しかし、利用者アンケートにより、UDの観点から改善が必要と思われる課題が抽出されました。
- ✓ 授乳室利用は授乳利用とおむつ替え利用があり、利用目的に応じた個室化の要望が多く、早急にカーテンで仕切り、個室化を図りました。
- ✓ また、授乳室の位置がわからない利用者も少なくありませんでした。そのため、他の取組であるネットワークルートのおすすめルートマップに授乳室の位置を掲載したりWebで公開したり、福岡市の「赤ちゃんの駅」に登録したり等、周知に努めました。



奥にあったおむつ替え台を手前に移動し、仕切り用のカーテンを設置しました。

2：授乳室のモニタリング調査

- ✓ 公園内のどの場所で授乳室の設置ニーズが高いのか調査を実施したところ、子どもの遊具が集中するエリアに近い「ワンダーワールド口」、「大芝生広場レストハウス」への要望が多く寄せられました。
- ✓ その2箇所への新設を見込んで、H23年に暫定の授乳室を設置しました。
- ✓ マリンワールドを含む既設の3箇所と暫定の2箇所、計5箇所の授乳室を対象に、1歳未満の子ども連れの利用者や委員・有識者によるモニタリング調査を実施しました。
- ✓ その結果、匂いを抑えるための消臭剤の設置や手荷物を置くためのかごの設置等、より使いやすい授乳室へ改善されました。
- ✓ また、常に利用者の声を反映させ、利便性・快適性の向上に努めるため、セルフアンケートを設置しました。

1次モニタリング

1次試行の実施

委員・有識者
モニタリング

2次試行の実施

2次モニタリング
(1次と同じメンバー)

改善の継続
(セルフアンケート)

モニタリングの流れ



1歳未満の子ども連れの利用者によるモニタリング調査の様子



委員・有識者によるモニタリング調査の様子



消臭剤の設置



荷物置きのかごの設置



カーテンを明るい色に変え、室内を明るくしました。

場 所	施設の場所は分かりやすかったですか。				使いやすかったですか。				清潔感は保たれていますか。				気になるにおいなどがありましたか。			
	分かりやすい		分かりにくい		使いやすい		使いにくい		保たれている		保たれていない		ない		ある	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回
インフォメーション	59	140	15	39	45	155	47	41	65	176	4	5	62	172	35	8
大芝生レストハウス	6	49	0	2	8	52	1	2	8	52	1	2	6	54	5	0
西口	0	5	0	4	0	8	0	1	0	8	0	0	0	8	0	0
子どもの広場管理棟	13	54	0	5	10	54	1	2	11	54	0	10	7	46	3	30
動物の森レストハウス	12	18	1	10	11	29	2	1	12	24	1	1	13	22	0	4
森の家	3	8	0	0	3	9	0	0	3	9	0	0	3	8	0	0
合計	85	274	15	60	60	307	40	51	99	323	6	18	91	310	43	42

前回・・・H25. 10～H26. 01
今回・・・H26. 02～H26. 10

セルフアンケート結果 (H26.02～H26.10)
いずれの項目においても高評価を得ています。

3：利用者のニーズを踏まえた授乳室の新設

- ✓ 暫定施設から本格的な施設への整備において、①利便性、②セキュリティ、③整備にかかるコストを特に重視しました。
- ✓ 利便性についてはモニタリング結果を踏まえ、配置やデザイン、設備等を決定しました。
- ✓ 設置場所の決定にあたっては、数か所の候補地を現地確認し検討を重ねた結果、利便性及びセキュリティを考慮し、それぞれ既存の施設を改装して設置することとしました。
- ✓ 「ワンダーワールド口」においては、子ども連れの多い遊びのエリアに近く、また、スタッフも常駐している利便性と安全性を兼ね備えたインフォメーションセンターを改装することとしました。
- ✓ 「大芝生広場レストハウス」の暫定授乳室は、人目から離れた場所にありセキュリティの面で不安がありました。このため新設する授乳室は、スタッフが常駐するレストハウス内に設置し管理の目が行き届くようにしました。
- ✓ また、H25年に子どもの広場管理棟内に「すくすくスペース」を設置し、授乳室の近くで兄弟児が待機できたり、赤ちゃん連れの家族支援を行っています。



＜暫定施設＞
人目から離れた場所にあり、利用するにはスタッフから鍵を借りなければ利用できませんでした。



大芝生レストハウス内に設置することで、スタッフの目が行き届き安全性が確保できます。また、既に空調機能や給湯機能があったため、レストハウス内の内装工事のみで対応可能となり、コスト削減にもつながりました。



＜暫定施設＞
入口が狭くて暗く、遊びのエリアが近いので、多客時には授乳できる設備が足りませんでした。



インフォメーションセンター内に設置することで、大芝生広場レストハウスと同様、安全性とコスト削減の効果が得られました。当時、1Fはインフォメーションセンターとして機能していたため、2Fを改装する案も出ていました。しかし、赤ちゃんを抱っこして2Fに上がらなければならないことを考慮し、1Fへ設置することとしました。



乳幼児向けのプレイゾーン



階段・迷路



赤ちゃん身長計・体重計



ハイ・ママあんしんMAP

子どもの広場管理棟内の「すくすくスペース」

(5) サインシステムの再構築による情報提供の改善



<写真>

■地区案内 (A2)
サイン

主要なエリアごとに設置した地区案内サインにより、現在地と目的地の位置が把握できます。

1 : ケヴィン・リンチの手法



- ✓ ケヴィン・リンチの手法による空間認識をもとに、公園自体を分かりやすくすることでサインの設置を最小限にするよう検討しました。
- ✓ 適切な場所に適切なサインを配置することで、サインを最小限に配置できます。
- ✓ 全体案内サイン及び地区案内サインの配置の見直しと適切な現在地表示により、「公園ガイド」と連携した案内が可能となります。

2 : ランドマークとなる施設の強調

- ✓ 「サインだけですべてを解決しようとしないう」という方針のもと、ランドマークとなる施設を強調する、目的地を視認させるなどにより、極力サインに頼らずに園内を円滑に移動できるよう、園内の再整備等を実施しました。



<対策前>

「スカイドルフィン」は特徴的な形の遊具で、利用者にとって目印の一つです。周囲をサイクリングロードが走っていますが、サイクリングロードからの視認性は良くありませんでした。



<対策後>

木々を間引くことで、「スカイドルフィン」の視認性が向上しました。

「スカイドルフィン」を目的地としている利用者にとって分かりやすく、その他の利用者にとっても「スカイドルフィン」を目印に目的地に行きやすくなります。

3 : ピクトグラムの統一

- ✓ 園内サインは誰もが分かりやすいデザインとなるよう、園内施設のピクトグラムを統一しました。
- ✓ 基本的にはJIS規格に準拠するものとし、福岡市の福祉のまちづくり条例も参考としながら、サインシステムとして必要なものは追加しました。



統一したピクトグラム

4：外国人の意見も踏まえた4カ国語表記

- ✓ 外国人でも楽しめるよう、4カ国語表記（日・英・中・韓）とすることを決定しました。
- ✓ 留学生などの外国人に実際に現地視察して頂き、施設の名称の表記を決定しました。



外国語表記検討の様子



4か国語を表記したサイン

5：トイレの案内サインの改善

- ✓ トイレの入り口にしかピクトグラムがないため、離れた場所からトイレを認識しづらい状況でした。
- ✓ また、トイレが樹木の陰になり建物自体が目立ちませんでした。
- ✓ 樹木の伐採及びトイレの裏側へのピクトグラムの設置により、視認性を向上させました。（下図参照）
- ✓ また、園路より離れた場所にある場合や建物がトイレと認識されにくい場合は、自立型のトイレ記名サインの設置も検討しました。



園路から離れた場所にトイレがある場所には自立型のトイレ記名サインを設置しました。

トイレの入り口



裏側にピクトグラムがありませんでした

<対策前>

トイレの裏側



裏側にもピクトグラムの設置

伐採により視認性を高める

<対策後>

トイレの入り口しかピクトグラムがなく、裏から見るとトイレだとは分からない状況でした。

6：音によるゲート認識

- ✓ 利用者が、目的地の最寄りのゲートを認識しているか調査を実施しました。
- ✓ 西口には手動で鳴らす鐘を設置し、ワンダーワールド口の歩行者ボックス道路内には疑似音及び光で演出しゲート案内をしました。
- ✓ 「どこから入場したか分かりやすい」「目の不自由な方のためにも、あった方が良い」などのご意見を頂き好評でした。
- ✓ また「鐘を鳴らすのが楽しい」「音と光の演出でワクワクする」等、ゲート認識以外の効果も得られました。
- ✓ しかし、目的地の最寄りの駐車場（ゲート）が分からないという声が多く、目的の場所や施設に一番近い駐車場への案内が必要ということが分かりました。



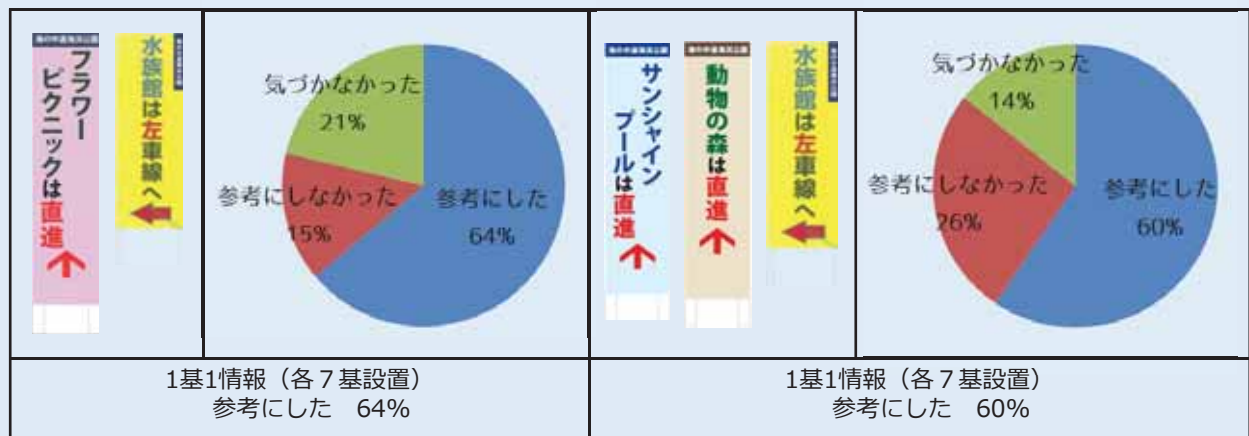
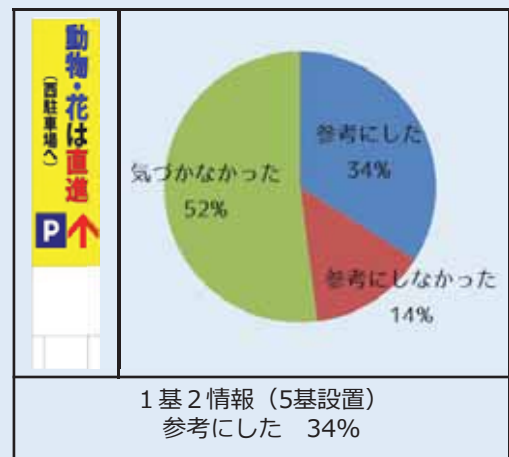
西口に設置された手動の鐘



ワンダーワールド口の疑似音及び光の演出

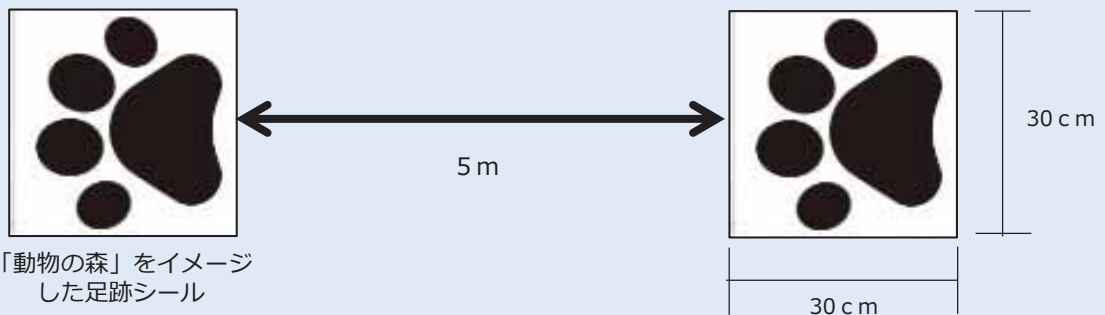
7：仮設看板による駐車場案内

- ✓ 利用者に目的地の最寄り駐車場を案内することを目的として、駐車場案内を実施しました。
- ✓ 各機関により、目的に応じた看板を設置していましたが、統一感がなく、乱立した印象がありました。
- ✓ 目的が異なる利用者、例えば「動物の森」が目的の利用者と「サンシャインプール」が目的の利用者を同じ西駐車場へ誘導する必要がありました。
- ✓ そこで、運転しながらどの程度の情報を認識できるのか検証しました。
- ✓ その結果、1基1情報として、異なる3種の情報までは認識可能という結果が得られました。



8 : シンプルで分かりやすいマーク

- ✓ 外国人や子どもなどが文字が読めなくても理解できること、「動物の森」がイメージできること、行き道が楽しくなることを満たし、シンプルで分かりやすいマークを検討しました。
- ✓ 色弱者でも認識しやすいよう、白地に黒のシンプルな配色とデザインにしました。
- ✓ H29年度にUD検討委員会と合同現地踏査を行い、景観を損ねることのないよう、シールのサイズや設置する間隔を決定しました。
- ✓ 試行においては概ね好評を得ることができ、R2年度から本格的な運用を開始しました。



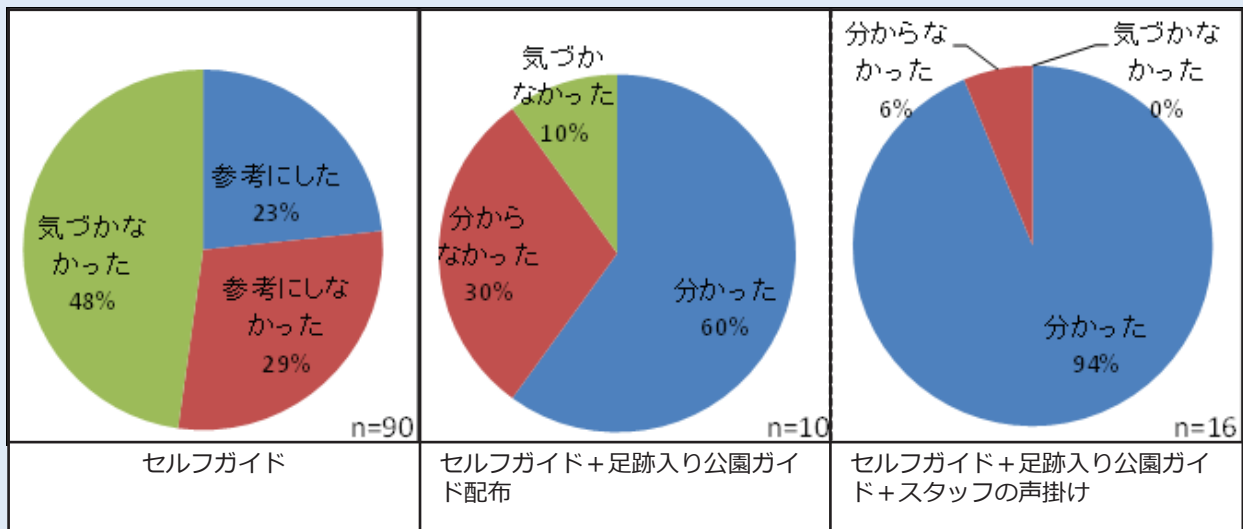
9 : 他の案内ツールとの相乗効果検証

- ✓ 公園ガイドや公園内のマップサインへ路面シールを反映し検証しました。
- ✓ ゲート付近での路面シールの説明（来園者への声掛け）と公園ガイドの配布も行いました。
- ✓ 検証の結果、スタッフの声掛けによる効果が大きく、スタッフのサービス向上が求められることが分かりました。



路面シール設置に合わせ、公園ガイド（左）や公園内のマップサイン（右）の試行版を作成しました。

来園者への声掛けと公園ガイド（試行版）配布を行いました。



(6) 「通り名で道案内」



<写真>

■ 通り名

「通り名で道案内」とは、土地に不慣れな方に、「通りの名前」と「距離を表す位置番号」を記載した「地点標」で、目的地への案内をしようという試みです。

「長崎さるく博」での事例をヒントに本公園でも試行的に実施しました。

1 : プロジェクトチームによる検討

- ✓ 参考とした一般道路での「通り名で道案内」を公園に最適な仕組みとするため、プロジェクトチームを作って検討しました。
- ✓ 園内の利用者の動き（動線）を調査した上で、主要な8園路に通り名を付して、「通りの名前による案内MAP」の作成、園路への位置番号標の設置を行いました。



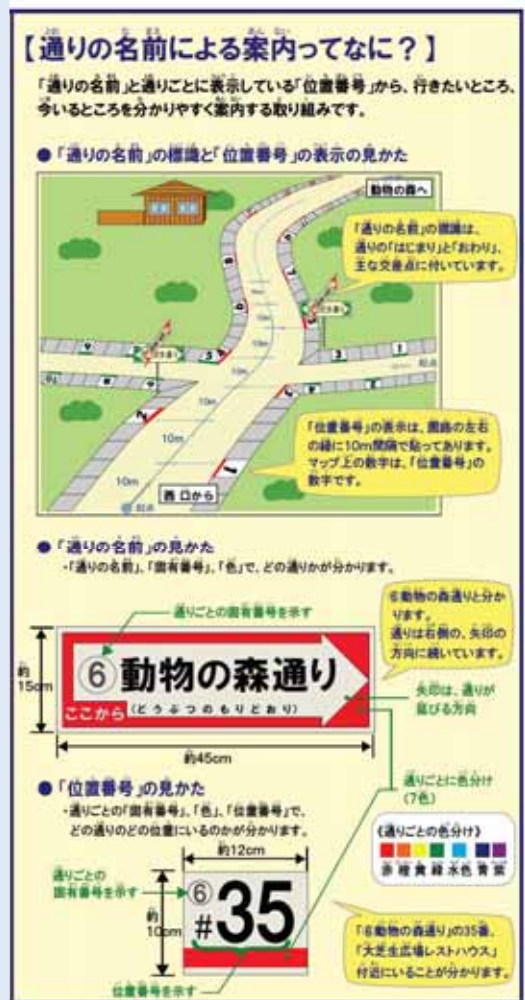
位置番号標の例



標識の例



通りの名前の例



2：定着に向けた広報等

- ✓ 通りの名前を、公園ガイドやホームページに反映し、積極的な情報発信を実施しました。
- ✓ 通りの名前の募集、スタンプラリーの実施などにより普及定着を図りました。



通りの名前の募集



スタンプラリー

3：スタッフへの研修

- ✓ スタッフが通りの名前で道案内がスムーズにできるよう、研修を実施しました。
- ✓ 利用者からは、目的地までスムーズに行けるようになった等の声を頂きました。



研修の様子

4：他公園の「通り名で道案内」事例

- ✓ 一定程度効果はあったものの、園内の主要施設間の移動時間をマップに掲載するなどの園内マップの充実、サインに頼らない案内等のサインシステムの再構築等に伴い、試行はH23年度までで終了しました。
- ✓ 本公園と同時期に試行を開始した吉野ヶ里歴史公園では、当案内システムを現在も継続しています。弥生時代の景観を再現するため、サインの設置を最小限にする必要がある公園では効果的な案内方法であると考えています。



国営吉野ヶ里歴史公園



(7) 公園ガイドマップの充実



<写真>

■公園ガイド

現在は、日・英・中・韓の4カ国語に対応した公園ガイドを発行しています。

1 : 見やすさの向上

- ✓ 従来のガイドマップは、文字が小さいこと、色を分けることによってエリア区分を説明をしていること等、色弱者には読みづらい点がありました。
- ✓ また、距離感が分かりづらいため、施設間の移動距離、移動時間の目安が分かりにくい状況でした。
- ✓ そのため、版を大きくすることで文字サイズを上げ、色の濃淡で表現することで、色弱者の方だけでなく、すべての人にとって読みやすいマップにしました。
- ✓ さらに現地の縮尺と合わせ、主要施設間の移動所要時間を掲載し利便性を向上させました。

当初公園ガイドにおける課題



改善後の公園ガイド



色弱者に配慮した配色
(白黒でも判別可能)



2 : セルフガイドツール、情報提供ツールとしての公園ガイド

- ✓ 「公園ガイド」をセルフガイドツールとして積極的に活用することで、サインに頼らない案内システムの一助を担うことができます。
- ✓ そのために、目的地が分かりやすいよう主要な施設には写真を掲載する、施設間の移動時間を掲載する等の工夫を行いました。
- ✓ また、公園ガイドと現地のマップサイン、Webを連動させることが重要と考え、マップサインやWeb上に公開している公園マップのベースを、公園ガイドに変更しました。
- ✓ マップ面には、トイレ情報や救護施設、津波時の避難場所等の情報を、裏面には、各施設の案内や花こよみ等を掲載しており、重要な情報提供ツールとしての役割も果たしています。
- ✓ さらに、利用料金や海の中道海浜公園までのアクセス等も掲載しており、事前情報提供ツールとしても活用できます。



3 : 外国語対応（留学生による表記チェック）

- ✓ インバウンド需要の増加に伴って、H24年度に、公園ガイドを4カ国語表記で作成しました。
- ✓ 作成にあたっては留学生に表現をチェックしてもらい、分かりやすい情報提供が来ているか確認しながら行いました。



日・英・中・韓の4カ国語に対応した新公園ガイドマップ

 海の中道海浜公園
Uminonakamichi Seaside Park

ユニバーサルデザイン 10年の取組